



茨城県景気ウォッチャー調査

(平成19年6月調査分)

景気の現状判断DI

	平成19年3月	平成19年6月	前回調査比
茨城県	51.3	51.0	0.3
県北地域	51.4	48.2	3.2
県央地域	52.3	50.9	1.4
鹿行地域	49.1	51.7	+2.6
県南地域	50.9	53.5	+2.6
県西地域	53.1	50.9	2.2

景気の先行き判断DI

	平成19年3月	平成19年6月	前回調査比
茨城県	53.0	49.9	3.1
県北地域	52.3	52.2	0.1
県央地域	50.0	50.9	+0.9
鹿行地域	51.8	50.4	1.4
県南地域	55.6	49.6	6.0
県西地域	54.8	46.6	8.2

平成19年6月

茨城県企画部統計課

問い合わせ先

統計課企画分析グループ TEL:029-301-2642

ホームページアドレス

<http://www.pref.ibaraki.jp/tokei/betu/bukka/watch/index.htm>

目 次

調査の概要	1
調査結果の概要	3
1 全県の動向	3
（1）景気の現状判断D I	3
（2）景気の先行き判断D I	4
2 地域別の動向	5
（1）景気の現状判断D I	5
（2）景気の先行き判断D I	7
3 回答率	10
景気の判断理由	11
1 景気の現状判断理由	11
2 景気の先行き判断理由	21
3 その他の意見	31

調査の概要

1 調査の目的

経済の第一線で働いている人々から、景気の現状や景気の先行き判断に関する生の情報を地域ごとに把握するとともに迅速に公表することで、県や市町村のきめ細かな施策立案や経済界におけるタイムリーな景気判断の基礎資料とする。

2 調査の範囲

(1)対象地域

県下全域を対象とする。また、全域を県北、県央、鹿行、県南及び県西の5地域に区分する。なお、各地域に含まれる市及び郡は以下のとおりである。

平成19年6月30日現在

地域	市及び郡
県北地域	日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、ひたちなか市、常陸大宮市、那珂市、那珂郡、久慈郡
県央地域	水戸市、笠間市、小美玉市、東茨城郡
鹿行地域	鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鉾田市
県南地域	土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、稲敷郡、北相馬郡
県西地域	古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、結城郡、猿島郡

(2)調査客体

家計動向、企業動向及び雇用動向を敏感に反映する業種に従事する者から、(1)で示した地域ごとに60名、計300名を調査客体とする。

【地域別・業種別調査客体数】

業種名	具	体	例	県北地域	県央地域	鹿行地域	県南地域	県西地域	合計
家計関連	小売業、飲食業、サービス業、住宅関連等			38	39	38	37	36	188
企業関連	製造業(食料品、一般機械器具等)、建設業、金融業			17	16	17	18	19	87
雇用関連	人材派遣業、公共職業安定所、求人広告業等			5	5	5	5	5	25
		計		60	60	60	60	60	300

3 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断(方向性)
- (2) (1)の理由
- (3) 景気の先行きに対する判断(方向性)
- (4) (3)の理由
- (5) その他景気に関する意見(自由回答)

4 調査月及び調査期間

調査月は3月、6月、9月及び12月の年4回である。平成19年6月調査の調査期間は平成19年6月1日から6月27日である。

5 利用上の注意

- (1) 景気動向指数(DI)は景気の方角性を判断するものであり、景気の水準を判断するものではない。
- (2) ウォッチャーの回答構成比は、小数第1位までの表示とし、表示単位未満の端数は四捨五入した。したがって、構成比の合計は100%とならない場合がある。

景気動向指数(DI)について

- 1 景気の現状及び景気の先行きに対する判断の回答区分は、以下のとおり5段階としているが、それぞれに点数化し、これらを各回答区分の構成比(%)に乗じて、景気動向指数(DI)を算出している。

回答区分	良くなって いる	やや良 くなっている	変わらない	やや悪 くなっている	悪くなって いる
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

2 具体例

回答者数100名で、回答内訳が以下の場合。

良くなって いる	やや良 くなっている	変わらない	やや悪 くなっている	悪くなって いる
15名	27名	25名	11名	22名

それぞれの回答構成比は

良くなって いる	やや良 くなっている	変わらない	やや悪 くなっている	悪くなって いる
15.0%	27.0%	25.0%	11.0%	22.0%

したがって、DI値は、

$$(1 \times 15.0) + (0.75 \times 27.0) + (0.5 \times 25.0) + (0.25 \times 11.0) + (0 \times 22.0) = 50.5 \text{ となる。}$$

この値は、全員が「変わらない」と回答した場合は、 $(0.5 \times 100) = 50$ となることから、50を上回っているときは、景気の上昇局面にあり、また50を下回っているときは、景気の下降局面にあるといえる。

調査結果の概要

1 全県の動向

(1) 景気の現状判断DI

3か月前と比較した景気の現状判断DIは51.0となった。「やや良くなっている」の回答構成比が減少し、「やや悪くなっている」の回答構成比が増加したため、3月調査分より0.3ポイント低下したものの、横這いを表す50を7期連続で上回った。業種別にみると、家計動向関連DI及び雇用関連DIは3月調査分を上回ったものの、企業動向関連DIは3月調査分を下回った。

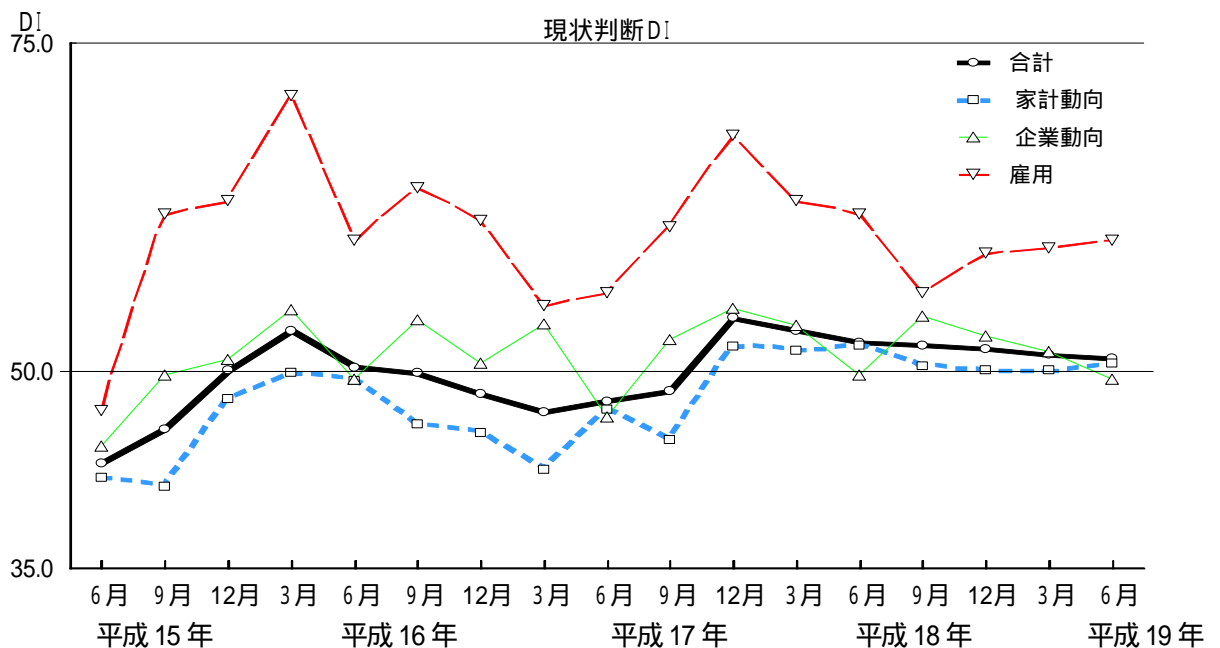
表1-1 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成18年	平成18年	平成18年	平成19年	平成19年
		6月	9月	12月	3月	6月
合計		52.2	52.0	51.7	51.3	51.0
家計動向関連		52.0	50.4	50.1	50.1	50.6
小売関連		52.4	53.2	47.1	49.2	51.1
飲食関連		53.6	46.3	56.9	55.0	47.5
サービス関連		50.6	48.7	51.9	49.0	50.3
住宅関連		58.3	52.8	44.4	55.6	55.6
企業動向関連		49.7	54.2	52.7	51.5	49.4
農林水産業		43.8	46.9	53.1	46.9	50.0
製造業		49.0	52.3	52.8	49.4	50.0
非製造業		52.6	58.6	52.5	55.6	48.4
雇用関連		62.0	56.0	59.0	59.4	60.0

表1-2 回答構成比

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
平成18年 6月	3.1%	22.7%	56.9%	14.6%	2.7%
平成18年 9月	2.8%	28.1%	47.0%	18.6%	3.5%
平成18年 12月	3.2%	26.5%	48.4%	17.7%	4.2%
平成19年 3月	1.4%	27.3%	51.1%	15.5%	4.7%
平成19年 6月	2.1%	25.0%	51.0%	18.8%	3.1%

図1-1 景気の現状判断DIの推移



(2) 景気の先行き判断DI

3か月先の景気の先行き判断DIは49.9となった。「やや良くなっている」の回答構成比が減少し、「悪くなっている」「やや悪くなっている」の回答構成比が増加したため、3月調査分より3.1ポイント低下し、横這いを表す50を2期ぶりに下回った。業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが3月調査分を下回った。

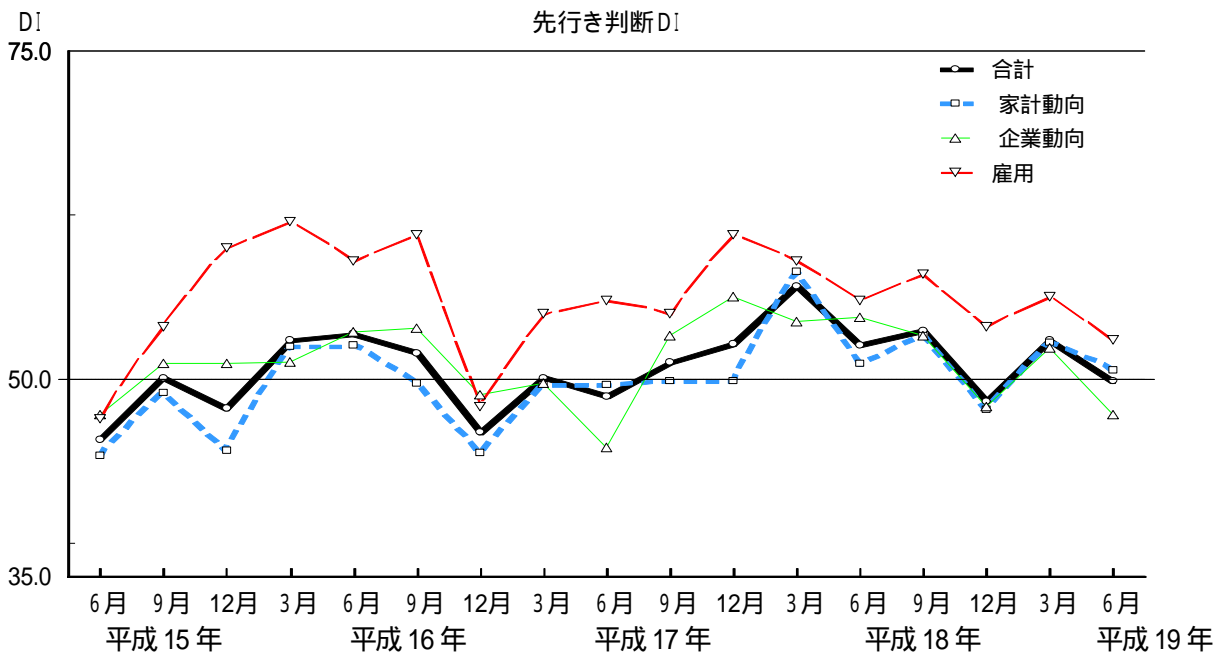
表1-3 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成18年	平成18年	平成18年	平成19年	平成19年
		6月	9月	12月	3月	6月
合計		52.6	53.7	48.3	53.0	49.9
家計動向関連		51.2	53.3	47.7	52.8	50.7
小売関連		52.1	51.4	48.2	53.1	48.6
飲食関連		50.0	63.8	47.2	52.5	45.0
サービス関連		49.7	52.3	47.8	52.6	54.1
住宅関連		61.1	52.8	44.4	52.8	50.0
企業動向関連		54.7	53.3	47.9	52.4	47.3
農林水産業		53.1	59.4	53.1	53.1	50.0
製造業		53.6	54.0	46.6	52.8	45.5
非製造業		56.9	50.8	48.3	51.6	49.2
雇用関連		56.0	58.0	54.0	56.3	53.0

表1-4 回答構成比

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
平成18年 6月	1.7%	26.1%	55.3%	14.9%	2.0%
平成18年 9月	3.9%	26.7%	51.6%	16.1%	1.8%
平成18年 12月	1.8%	14.8%	60.8%	20.1%	2.5%
平成19年 3月	1.1%	27.0%	56.8%	12.9%	2.2%
平成19年 6月	2.1%	21.5%	55.9%	14.9%	5.6%

図1-2 景気の先行き判断DIの推移



2 地域別の動向

(1) 景気の現状判断DI

県北地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは48.2となった。3月調査分より3.2ポイント低下し、横這いを表す50を3期ぶりに下回った。また、現状判断DIは全県を通じて最も低かった。業種別にみると、企業動向関連DI及び雇用関連DIは横這い、家計動向関連DIは3月調査分を下回った。

表2-1 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成18年	平成18年	平成18年	平成19年	平成19年
		6月	9月	12月	3月	6月
合計		49.2	49.1	52.2	51.4	48.2
	家計動向関連	47.4	45.0	47.8	50.8	45.8
	企業動向関連	51.5	57.4	58.8	50.0	50.0
	雇用関連	55.0	50.0	60.0	60.0	60.0

表2-2 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成18年 6月	0.0%	21.7%	58.3%	15.0%	5.0%
平成18年 9月	5.3%	21.1%	43.9%	24.6%	5.3%
平成18年 12月	0.0%	33.9%	46.4%	14.3%	5.4%
平成19年 3月	0.0%	27.8%	55.6%	11.1%	5.6%
平成19年 6月	0.0%	15.8%	63.2%	19.3%	1.8%

県央地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは50.9となった。3月調査分より1.4ポイント低下したものの、横這いを表す50を7期連続で上回った。業種別にみると、企業動向関連DIは3月調査分を上回ったものの、家計動向関連DI及び雇用関連DIは3月調査分を下回った。

表2-3 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成18年	平成18年	平成18年	平成19年	平成19年
		6月	9月	12月	3月	6月
合計		52.2	56.0	50.4	52.3	50.9
	家計動向関連	51.4	56.8	50.7	54.3	51.3
	企業動向関連	48.3	54.7	46.4	44.6	48.3
	雇用関連	70.0	55.0	60.0	60.0	55.0

表2-4 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成18年 6月	5.3%	19.3%	57.9%	14.0%	3.5%
平成18年 9月	5.2%	29.3%	53.4%	8.6%	3.4%
平成18年 12月	3.6%	17.9%	60.7%	12.5%	5.4%
平成19年 3月	0.0%	29.6%	55.6%	9.3%	5.6%
平成19年 6月	1.7%	20.7%	58.6%	17.2%	1.7%

鹿行地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは51.7となった。3月調査分より2.6ポイント上昇し、横這いを表す50を2期ぶりに上回った。業種別にみると、家計動向関連DI及び雇用関連DIは3月調査分を上回ったものの、企業動向関連DIは3月調査分を下回った。

表2-5 景気の現状判断DI

分野	調査日時				
	平成18年 6月	平成18年 9月	平成18年 12月	平成19年 3月	平成19年 6月
合計	55.9	53.1	53.6	49.1	51.7
家計動向関連	56.6	49.3	50.0	45.6	49.3
企業動向関連	51.6	60.9	58.8	54.7	51.5
雇用関連	65.0	55.0	60.0	55.0	70.0

表2-6 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成18年 6月	3.4%	30.5%	54.2%	10.2%	1.7%
平成18年 9月	1.8%	29.8%	49.1%	17.5%	1.8%
平成18年12月	1.8%	33.9%	44.6%	16.1%	3.6%
平成19年 3月	1.8%	18.2%	58.2%	18.2%	3.6%
平成19年 6月	0.0%	34.5%	41.4%	20.7%	3.4%

県南地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは53.5となった。3月調査分より2.6ポイント上昇し、横這いを表す50を8期連続で上回った。また、現状判断DIは全県を通じて最も高かった。業種別にみると、家計動向関連DI及び雇用関連DIは3月調査分を上回ったものの、企業動向関連DIは3月調査分を下回った。

表2-7 景気の現状判断DI

分野	調査日時				
	平成18年 6月	平成18年 9月	平成18年 12月	平成19年 3月	平成19年 6月
合計	52.1	52.6	51.3	50.9	53.5
家計動向関連	52.8	54.4	50.7	50.0	54.3
企業動向関連	45.8	48.6	50.0	50.0	48.5
雇用関連	70.0	55.0	60.0	60.0	65.0

表2-8 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成18年 6月	3.4%	23.7%	54.2%	15.3%	3.4%
平成18年 9月	1.8%	35.1%	40.4%	17.5%	5.3%
平成18年12月	6.8%	23.7%	42.4%	22.0%	5.1%
平成19年 3月	3.4%	31.0%	39.7%	17.2%	8.6%
平成19年 6月	7.0%	28.1%	42.1%	17.5%	5.3%

県西地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは50.9となった。3月調査分より2.2ポイント低下したものの、横這いを表す50を3期連続で上回った。業種別にみると、家計動向関連DIは3月調査分を上回ったものの、企業動向関連DI及び雇用関連DIは3月調査分を下回った。

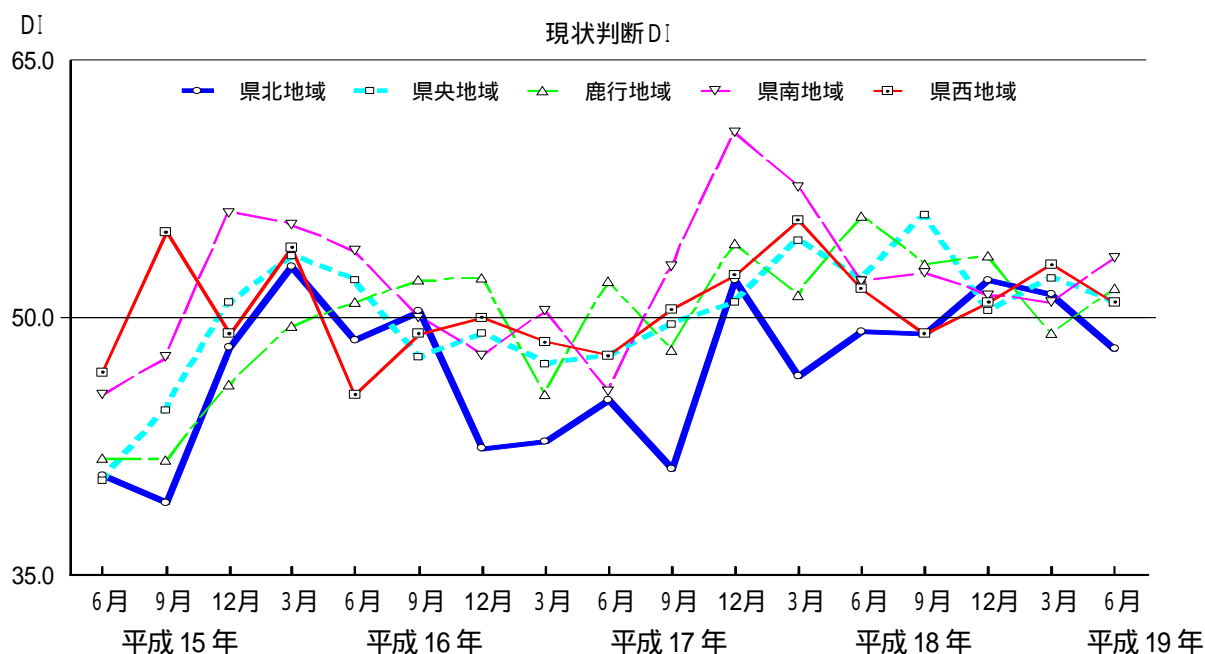
表2 - 9 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成18年	平成18年	平成18年	平成19年	平成19年
		6月	9月	12月	3月	6月
合計		51.7	49.1	50.9	53.1	50.9
	家計動向関連	52.1	46.3	51.4	50.0	52.2
	企業動向関連	51.3	50.0	48.4	56.9	48.7
	雇用関連	50.0	65.0	55.0	62.5	50.0

表2 - 10 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成18年 6月	3.3%	18.3%	60.0%	18.3%	0.0%
平成18年 9月	0.0%	25.0%	48.2%	25.0%	1.8%
平成18年 12月	3.6%	23.2%	48.2%	23.2%	1.8%
平成19年 3月	1.8%	29.8%	47.4%	21.1%	0.0%
平成19年 6月	1.7%	25.9%	50.0%	19.0%	3.4%

図2 - 1 地域別現状判断DIの推移



(2) 景気の先行き判断DI

県北地域

3か月先の景気の先行き判断DIは52.2となった。3月調査分より0.1ポイント低下したものの、横這いを表す50を2期連続で上回った。また、先行き判断DIは全県を通じて最も高かった。業種別にみると、企業動向関連DIは3月調査分を上回ったものの、家計動向関連DI及び雇用関連DIは3月調査分を下回った。

表2 - 11 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成18年	平成18年	平成18年	平成19年	平成19年
		6月	9月	12月	3月	6月
合計		53.8	54.4	48.2	52.3	52.2
	家計動向関連	52.0	51.4	44.9	53.1	52.1
	企業動向関連	60.3	60.3	54.4	48.5	51.6
	雇用関連	45.0	55.0	50.0	60.0	55.0

表2 - 12 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成18年 6月	1.7%	28.3%	55.0%	13.3%	1.7%
平成18年 9月	5.3%	24.6%	54.4%	14.0%	1.8%
平成18年12月	0.0%	14.3%	66.1%	17.9%	1.8%
平成19年 3月	0.0%	25.9%	59.3%	13.0%	1.9%
平成19年 6月	1.8%	22.8%	59.6%	14.0%	1.8%

県央地域

3か月先の景気の先行き判断DIは50.9となった。3月調査分より0.9ポイント上昇し、横這いを表す50を2期ぶりに上回った。業種別にみると、家計動向関連DIは3月調査分を上回ったものの、企業動向関連DI及び雇用関連DIは3月調査分を下回った。

表2 - 13 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成18年 6月	平成18年 9月	平成18年 12月	平成19年 3月	平成19年 6月
合計		51.8	53.0	50.9	50.0	50.9
	家計動向関連	50.0	53.4	50.7	48.6	53.3
	企業動向関連	50.0	46.9	46.4	50.0	43.3
	雇用関連	70.0	70.0	65.0	60.0	55.0

表2 - 14 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成18年 6月	3.5%	15.8%	68.4%	8.8%	3.5%
平成18年 9月	3.4%	25.9%	51.7%	17.2%	1.7%
平成18年12月	5.4%	10.7%	66.1%	17.9%	0.0%
平成19年 3月	0.0%	22.2%	57.4%	18.5%	1.9%
平成19年 6月	3.4%	15.5%	65.5%	12.1%	3.4%

鹿行地域

3か月先の景気の先行き判断DIは50.4となった。3月調査分より1.4ポイント低下したものの、横這いを表す50を2期連続で上回った。業種別にみると、企業動向関連DIは3月調査分を上回ったものの、家計動向関連DI及び雇用関連DIは3月調査分を下回った。

表2 - 15 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成18年 6月	平成18年 9月	平成18年 12月	平成19年 3月	平成19年 6月
合計		53.0	49.6	47.8	51.8	50.4
	家計動向関連	50.7	48.6	44.1	51.5	47.9
	企業動向関連	56.3	51.6	54.4	50.0	54.4
	雇用関連	60.0	50.0	50.0	60.0	55.0

表2 - 16 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成18年 6月	0.0%	30.5%	52.5%	15.3%	1.7%
平成18年 9月	0.0%	19.3%	61.4%	17.5%	1.8%
平成18年12月	1.8%	16.1%	57.1%	21.4%	3.6%
平成19年 3月	1.8%	25.5%	54.5%	14.5%	3.6%
平成19年 6月	1.7%	24.1%	51.7%	19.0%	3.4%

県南地域

3か月先の景気の先行き判断D Iは49.6となった。3月調査分より6.0ポイント低下し、横這いを表す50を2期ぶりに下回った。業種別にみると、雇用関連D Iは3月調査分を上回ったものの、家計動向関連D I及び企業動向関連D Iは3月調査分を下回った。

表2 - 17 景気の先行き判断D I

分野	調査日時	平成18年	平成18年	平成18年	平成19年	平成19年
		6月	9月	12月	3月	6月
合計		56.8	60.1	47.5	55.6	49.6
	家計動向関連	56.3	62.5	49.3	55.7	52.9
	企業動向関連	58.3	56.9	43.1	56.9	41.2
	雇用関連	55.0	55.0	50.0	50.0	55.0

表2 - 18 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成18年 6月	1.7%	39.0%	47.5%	8.5%	3.4%
平成18年 9月	7.0%	40.4%	40.4%	10.5%	1.8%
平成18年12月	0.0%	20.3%	54.2%	20.3%	5.1%
平成19年 3月	3.4%	24.1%	65.5%	5.2%	1.7%
平成19年 6月	1.8%	24.6%	52.6%	12.3%	8.8%

県西地域

3か月先の景気の先行き判断D Iは46.6となった。3月調査分より8.2ポイント低下し、横這いを表す50を2期ぶりに下回った。また、先行き判断D Iは全県を通じて最も低かった。業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのD Iが3月調査分を下回った。

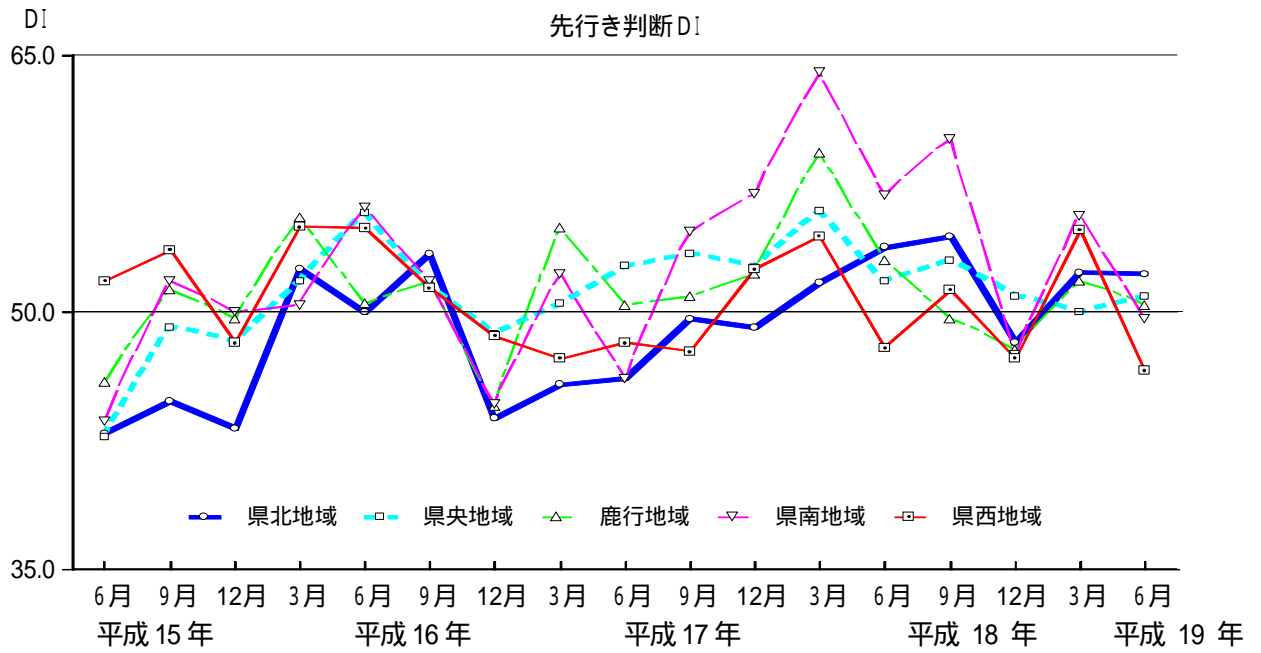
表2 - 19 景気の先行き判断D I

分野	調査日時	平成18年	平成18年	平成18年	平成19年	平成19年
		6月	9月	12月	3月	6月
合計		47.9	51.3	47.3	54.8	46.6
	家計動向関連	47.2	50.7	49.3	55.0	47.1
	企業動向関連	48.7	50.0	40.6	55.6	46.1
	雇用関連	50.0	60.0	55.0	50.0	45.0

表2 - 20 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成18年 6月	1.7%	16.7%	53.3%	28.3%	0.0%
平成18年 9月	3.6%	23.2%	50.0%	21.4%	1.8%
平成18年12月	1.8%	12.5%	60.7%	23.2%	1.8%
平成19年 3月	0.0%	36.8%	47.4%	14.0%	1.8%
平成19年 6月	1.7%	20.7%	50.0%	17.2%	10.3%

図2 - 2 地域別先行き判断DIの推移



3 回答率

地域	調査客体	回答数	回答率
全 県	300 人	288 人	96.0%
県北地域	60 人	57 人	95.0%
県央地域	60 人	58 人	96.7%
鹿行地域	60 人	58 人	96.7%
県南地域	60 人	57 人	95.0%
県西地域	60 人	58 人	96.7%

景気の判断理由

1 景気の現状判断理由

(1) 県北地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。

: 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由
良	-		
やや良くなっている	家計	スーパー	半年ほど前より、徐々に景気の上昇を感じていたが、右肩上がりの状況は現在も変わらない。買い上げ点数や客単価も上昇している。
		農産物直売所	売上げは、前年より落ちてはいるが、3ヶ月前と比較すると良くなっている。
		タクシー運転手	原因はよく分からないが、昨年に比べ売上げが伸びている。
		ゲームセンター	開店から8ヶ月が経過し、最近では客数も落ち着いてきていたが、イベントやゲーム大会などを今月から実施したところ、客入りがまた伸びた。地元企業でボーナスが出たことも影響しているかもしれない。
		クリーニング店	客数、客単価ともに伸びている。
	企業	製造業（電気機械器具）	受注が増加している。
		製造業（電気機械器具）	売上高及び収益が増加している。
	雇用	公共職業安定所	新規求人は、平成18年8月以降、増加傾向で推移しているが、依然として派遣やパートなど臨時的な求人が多く、「良い」との判断はしがたい。新規求職者は、引き続き減少している。
		学校就業関係者	求人の申込みが増加している。また、企業などからの研修申込みも増えている。
	変わらない	家計	スーパー
スーパー			食料品の売上げは横這いである。マヨネーズや果実飲料などの値上げが報道されたが、店頭価格にはまだ現れていない。
コンビニエンスストア			売上げについて、対前年比並の回復傾向が見られない。必要最低限の商品しか購入しない人が多い。
衣料品販売店			客数、売上げとも変化がない。
衣料品販売店			客単価の伸びが見られない。
自動車販売店			対前年同期比は、3ヶ月前と比較しても変わらない。
ガソリンスタンド			卸段階での値上げ分が十分に価格転嫁されていない。また、客の買い渋りもあり、全国的に需要が減退している。
小売業（酒類）			連休後は例年、客数、販売額ともに減少するが、季節柄、ビールや飲料水、父の日の贈答品などは期待できると思う。
レストラン			客の来店状況や話しぶりから推測して、変わっていないと思う。
居酒屋			給料日後であっても、客単価に変化が見られない。
観光型ホテル			予約状況に変化が見られない。売店や追加飲料等の売上げもほぼ横這いである。
旅行代理店			客単価が上がらない。
タクシー運転手			4～6月の間は、地元大企業の異動時期ではないため、タクシー売上げに関しては、良くも悪くもなかった。
ドライブイン			連休も終わり、一段落した様子である。景気の変動を感じる材料はない。
ゴルフ場			来場者数は前年よりも増加している。これは県北地域全体について言える傾向である。しかし、料金の安いゴルフ場に利用者が集中するのは相変わらずであり、本格的な景気回復と評価するには時期尚早だと思う。価格ではなく、商品・サービスの質により選択してもらえるようになるのを待ちたい。また、客単価には、来場者の地域差が伺える。首都圏からの客は、比較的料金等を気にせずプレーしているように感じる。料金の安い平日利用客の来場頻度が増えていることは確かなので、ゴルフ等に使用する時間が増えてきていると思う。
レジャー施設			客単価に変化はない。
レジャー施設	入園者数は大幅に増加しているが、施設利用者は前年と比べて変化がない。		
理容店	仕事が暇だと話す客が多い。		

(1) 県北地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。

: 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
変 わ ら な い	家計	美容室	美・理容業界は、1月は正月、4月は卒・入学、6月はボーナスと、月別に周囲の状況に左右され、売上げに起伏があるものの、平均するとあまり変化はない。
		住宅販売会社	来場者数に変化はない。
	企業	林業関係者	材木価格は落ち着いている。梅雨時期になり、材木の集荷も幾分調整気味である。
		水産業界関係者	水産業界ではシラスやイワシの不漁が続き、漁業者も加工業者も不況感から脱することができない。だが、最近は早朝にもかかわらず、国道などで車の往来が増加しているので、多少は景気の変動があるのかもしれない。
		製造業(食料品)	売上高については変わっていない。しかし、金利の上昇、原料の品薄、原油高騰に伴う資材の値上げ等による上昇分を、製品価格に転嫁できていないため、将来的には不安がある。
		製造業(電気機械器具)	特に変化を感じない
		製造業(電気機械器具)	仕事量については横這いの状況が継続しているものの、相変わらずステンレス材料の価格高騰が厳しい。また、量産対応のため、金型化へ移行せざるを得ず、これに伴う加工費の圧迫もあり、利益増には結びついていないのが現状である。
		製造業(電気機械器具)	受注はやや増加しているが、季節的な仕事なので、このままの状態が続くかどうかかわからない。
		建設業	全体としてあまり変化はないが、一部では、設備投資を計画又は実施する企業が増加している。
		建設業	公共事業も民間工事も減少しており、受注自体が少ない。また、建設業界にも南北の地域格差があり、地元地域での工事が減少している。工事内容次第ではあるが、景況判断が付きにくい。
		情報通信業(情報サービス業)	大手の製造業者から商談が来ているものの、単価が低く、収益は改善していない。
		金融業	現状からは、景気が良くなっているという実感は全くない。
	不動産業	市街地での分譲マンションや一戸建ては順調に推移しているものの、郊外での一戸建ては相変わらず動きが見られない。	
	雇用	人材派遣業	引き続き好調を維持している。
求人広告		ほとんどの取引先が、現状維持、状況を見て判断すると言っている。	
求人開拓員		設備投資の話が多少聞こえてくるが、依然として景気回復の気配は見えない。	
や や 悪 く な っ て い る	家計	商店街代表者	平日でも、郊外の大型店や量販店へ買い出しに行く傾向が強くなり、商店街への客足は益々減少している。
		家電販売店	これまで売上げを押し上げていた薄型テレビの売れ行きが少し鈍くなっている。
		小売業(水産物)	売上げも客数も減少している。
		小売業(靴製品)	対前年比売上げが98%以下となった。
		和食食堂	春先より、寒暖が安定しない日が続く、客の入りも芳しくなかった。
		観光型ホテル	連休の反動で、客数、売上げとも減少している。
		観光型ホテル	予約件数は、3ヶ月前よりもやや減少している。
		タクシー運転手	夜の飲食店の客が、かなり減少している。
	タクシー運転手	連休前は少し動きがあったものの、現在のところ動きは良くない。	
企業	製造業(電気機械器具)	主要な取引先の仕事量が、今年の上期に入り落ち込んでいる。	
	製造業(輸送用機械器具)	銅、原油、ニッケルなどの市況価格は依然として高止まっている。また、カーメーカーの国内販売不振に伴い、生産計画は大幅に未達となる見込み。更に、環境対応への要望が強くなり、ISO14000等の認証取得や、低クロム使用の表面処理は、7月始めまでに全面切り替えが必須である。一方、このような費用を全て価格に反映するのは難しいため、収益が圧迫される厳しい状況である。	
悪	家計	パチンコ店	来店頻度の低下、使用金額の減少傾向が顕著である。また、貸玉料金が通常の1/4という「1円パチンコ」を行っている店舗へ客が流れていることから、景気は良くないと思われる。

(2) 県央地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由	
良	家計	美容室	3ヶ月前も卒・入学時期で忙しかったが、5月以降は新規の客も多くなり、非常に忙しかった。	
やや良くなっている	家計	スーパー	従業員を募集しても、人材がなかなか確保できない状況であり、雇用面では景気は好転しているように思われる。	
		農産物直売所	客単価、売上げともに上昇している。	
		レストラン	前年同月と比較して、売上、客数が増加している。	
		ファミリーレストラン	客数及び客単価が上昇している。	
		観光型ホテル	法人需要が若干増加している。	
		レジャー施設	施設の利用契約者が増加した。また、問い合わせや見積り引合いも増加している。	
	企業	製造業(印刷・同関連業)	資金繰りが楽になった。	
		製造業(金属製品)	ゼネコンからの見積依頼件数が増加しており、受注も順調である。また、鋼材の値上がりとともに、受注単価が上がり、一定の利益が確保できている。	
		製造業(精密機械器具)	受注残高と引合い件数が増加している。	
		情報通信業(情報サービス)	市場における価格環境の厳しさに変化はなく、企業間の体力格差による商談受注の偏りなどは散見されるが、景気は回復基調にあると感じる。日常における顧客の話では、個人消費は若干弱りがあるものの、比較的堅調であり、あまり価格を意識しない購買層も増えているようだ。個人間の生活格差が顕著化してきたのかもしれない。	
	雇用	公共職業安定所	管内4月の事業所業況調査では、「普通」から「好調」と回答した企業が、183事業所140中箇所(76.5%)であった。業況DIは6.0で、前年同期調査時より3.9ポイント改善された。また、雇用保険の受給者実人員は14ヶ月連続で減少している。	
		学校就業関係者	大手企業の内定がほぼ出揃ったと思われるが、現時点では、複数の内定を貰ったが、本命企業の内定が出るまで承諾書の通知を遅らせることはできるか、あるいは、本命でない企業からの内定をどのように断ったらよいか、という相談がほとんどで、内定が貰えないことに関する相談は極めて少ない。しかし、これから、そのような相談が増えるのかもしれないと一抹の不安はある。	
	変わらな	家計	商店街代表者	良くもなく、悪くもなく、これといった変化は感じられない。
			商店街代表者	景気は相変わらず低迷している。
百貨店、総合スーパー			ハウスカード会員を対象とした招待会や、セールなどの催事期間中には、集客もあり売上げも堅調だが、それ以外の期間は、来店客数、売上げともに厳しい状況が続いている。	
百貨店、総合スーパー			相変わらず、財布のヒモは固いと思う。同じ商品を、数カ所の店舗で見比べてから購入するケースが目立つ。	
スーパー			客数、客単価に変化がない。	
スーパー			今のところ変化はないが、身近な生活商品が値上がりしているため、今後の消費動向にどのような影響が出るか気にかかる。	
スーパー			3ヶ月前と比べて、売上げに変化はない。ロックシティ水戸南ショッピングセンターがオープンした影響は、日曜日に若干あるものの大きくはない。	
専門スーパー			特に変化は見られない。	
専門スーパー			気温や天候にも目立った変化がないため、園芸、農業資材、建築資材などの動きは、平年どおり順調である。	
レストラン			3ヶ月前は歓送迎会などで来店客数が多かったが、現在もイベント開催等により集客を図っている。客数や売上は、例年と同水準程度で、特に変化はない。客単価も上がっていない。	
都市型ホテル			宿泊状況、客室稼働率も前年とほぼ同じである。	
都市型ホテル			予約状況(夏期)は、昨年を若干下回るくらいだが、今後も大幅な伸びは期待できない。	
旅行代理店			来店客数は構造的である。相変わらず、熟年層の購買力が旺盛であるのに対し、ファミリー層や若年層の売上げが伸びていない。景気が上向いていると評されるが、個人消費に力強さを感じるまでには至っていない。	
タクシー運転手			最近乗客との会話でも、景気の話は聞かれない。	

(2) 県央地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
変 わ ら な い	家計	タクシー運転手	売上げと実車回数について、2～3月と5～6月で比較してみると、実車回数は若干増加しているものの、1日あたりの売上げは逆に減少している。先日乗車した、製造業下請けの営業マンの方は、親会社に製品価格を叩かれるため、やっていくのがギリギリの苦しい状況だと話していた。また、県庁を訪れた県南の方は、水戸市は寂れた、つくば市の方が活気があると言っていた。
		タクシー運転手	乗客との会話からは、景気の変化は感じられない。
		ドライブイン	ロックシティ水戸南ショッピングセンターがオープンしたため、客足が流れてしまうことを心配していたが、天候に恵まれ、思ったより影響は少なかった。
		観光名所	売上げは、例年並みで推移しており、良くも悪くもない。
		ゴルフ場	トーナメントを開催しても、集客効果が見られない。今の時期は、特別優待などの特典がないため、予約件数も伸びてこない。
		ゲームセンター	来店客数は横這いであり、客の表情にも変化がないように思う。
		レジャー施設	天候に左右されてはいるが、団体客や遠足等の利用も前年とほとんど変わらない。しかし、景気が良くなっている感じもなく、むしろお土産などでは、消費の鈍化傾向を若干感じる。
		理容店	客数、売上げに変化はない。なかなか暮らしに余裕が出ない。
		建築設計事務所	短期間では、それ程の変化はないと思う。
		住宅販売会社	来店者数には変化がない。
い	企業	農業関係者	現在は作付期の段階であり、特に大きな動向はない。ただ、先日の降ひょうにより、梅や梨などの果樹に被害が及んでおり、減収が懸念される。
		製造業(印刷・同関連業)	特に変わった様子が見受けられない。
		運輸業(道路貨物運送業)	貨物の動きは、相変わらず落ち着いている。
		金融業	取引先の人達は、報道されているような景気回復を、実感として捉えてはいない。
		不動産業	客数は増加しているが、金額が抑えられている。
雇用	求人広告	求人を考えている企業が少なく、業況が良くないので、採用も控えているようだ。	
	求人開拓員	ソフトウェア関連の求人が増加している。但し、企業訪問においては、特に景気の変化は感じられなかった。	
や や 悪 く な っ て い る	家計	自動車販売店	景気の良い話は一つもなく、厳しい話ばかりを耳にする。
		割烹料理店	周辺には飲食店が多く、客の取り合いになってしまう。また、飲酒運転の罰則強化により、外食時に酒を飲む客が減少しており、売上げにも影響している。
		タクシー運転手	3～4月の卒・入学、異動シーズン、5月の連休が過ぎ、人の動きも少なくなった。
		パチンコ店	雨が降ると、通常の1.3倍くらいの集客が見込めるが、今年は梅雨入り後も雨があまり降らないため、例年に比べて売上げがやや落ちている。
	企業	製造業(食料品)	単価・数量ともに減少している。
		製造業(窯業・土石製品)	受注金額が減少している。
		製造業(一般機械器具)	4月を過ぎてから仕事量が減少している。材料の運送業者も荷が少ないと話していた。
		サービス業(広告業)	宣伝広告に対する販売効果を高く求められることが多い。それだけ集客及び販売状況が厳しいことが伺える。少ない予算で最大の効果を上げることは理想だが、現実には制作ロットや仕様を縮小することが多く、効果を上げるのが難しいケースが多い。そのため、宣伝広告を中止するクライアントも目立つ。
		サービス業(コンサルタント業)	水戸市の中心市街地において、一等地での空き店舗が目立ってきた。
	雇用	人材派遣業	3～4月の繁忙期を過ぎ、一段落した感がある。景気が悪くなったというより、落ち着いたと表現した方がいいかもしれない。
悪	家計	ドライブイン	2～3月は、偕楽園の梅祭りが開催され、年間で最も来園者が多い時期のため、その時期と比べると現在は、個人客も団体ツアー客も少ない。

(3) 鹿行地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良			
やや良くなっている	家計	商店街代表者	一時期より底を脱しているのではないかと。感覚的には明るさを取り戻しているように感じる。
		スーパー	昨年同期に比べ、売上げが伸びている。
		スーパー	店頭ギフト類の売れ行きが好調で、対前年比150%に達している。
		家電販売店	売上げ件数は、前年と比べほぼ横這いだが、買上げ商品の単価は上がっており、価格より品質を重視した購入傾向が伺える。時節柄、地上放送のデジタル化に合わせたテレビの買い替えが多い。また、法人関係のまとめ買いも多くなっている。
		農産物直売所	贈答用として、単価の高いメロンの売れ行きが良い。
		小売業（書店）	商品を購入するにあたり、ためらう客が少なくなり、まとめ買いをする客が増えたように思う。
		衣料品販売店	1人あたりの客単価が上昇している。
		洋食食堂	例年、連休後は売上げが低調になる時期だが、客数が増加しており、売上げも好調である。
		割烹料理店	3ヶ月前のように歓送迎会などはないものの、順調に予約が入っており、フリーの来店客も増加している。
		観光型ホテル	利用者が増加している。
		理容店	気候が温暖になってきたので、客数も徐々に伸びている。
	室内装飾業	昨年より幾分、注文物件が増えてきたような気がする。	
	企業	製造業（食料品）	コンビナートの定期修繕期間に入り、関連業者の出入りが増加している。これに伴い、ホテル、民宿、飲食店などの客足は3か月前に比べると伸びているが、昨年に比べれば良くなっているとは思えない。
建設業		鹿嶋市の周辺地域では、住宅建築が盛んである。定年退職後に都市部から移住する人や週末の別荘として利用する人、永住の地を求めて来る高齢者など、多種多様な人々が家を建てている。	
運輸業（道路貨物運送業）		前年同時期と比べて、取扱貨物量が増加している。今まで滞っていた貨物も4～5月で出荷した。連休明け以降も順調な動きは続いている。	
不動産業		不動産の価格面では、鹿行地区は依然として下落傾向だが、アパートの管理面では、3～5月にかけて入居率が格段に良かった。	
雇用	民間職業紹介業	大手企業の直接雇用・求人が増加しており、景気に上向き感を感じる。但しその分、派遣や職業紹介業者への依頼が減少している。	
	公共職業安定所	新規求職者数及び月間有効求職者数が減少し、雇用保険の新規加入事業所数と被保険者数が増加している。	
	学校就業関係者	昨年より求人の出足は速く、件数も多いようだ。もう少し経たないと明確ではないが、雇用面での景気は良くなっているようである。	
	求人开拓員	単価に関しては依然として厳しい状況が続いているが、仕事量は好調に推移している。	
変わらない	家計	商店街代表者	ここ数年、景気が改善している様子は見えない。このまま行くと、格差が益々広がるのではないかと懸念している。
		コンビニエンスストア	部分的には良い点も増えているが、競争が厳しく、客単価の下げ止まり感もない。ただ、大きくみれば、変わらない状況といえる。
		コンビニエンスストア	特に消費者の動きが良くなっているとは思えない。
		小売業（酒類）	客数、売上高ともに、それほど変化はない。
		スナック	暖かくなったら客足も伸びるか期待していたが、変化はない。
		タクシー運転手	マスコミなどで、景気が良くなっていると報道されているが、タクシーの乗客からは、そのような言葉や様子は見受けられない。大企業は好況であっても、まだ、従業員の給料にまでは反映されていないのではないかと。大企業や一部の人達だけが、その恩恵を受けているというのが実感である。
		タクシー運転手	乗客の数も売上げもあまり変化がない。客から貰うチップなどもあまり変わらない。
		ドライブイン	気温が上がるにつれて、行楽客や団体客は増加しているが、客の消費動向からは、景気そのものが良くなったとは考えにくい。

(3) 鹿行地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由	
変 わ ら な い	家計	観光名所	観光地における人々の動きを見ても、景気に変化は感じられない。	
		ゴルフ場	シーズンということもあり、入場者は増加しているが、売上は昨年比で変わらない。	
		クリーニング店	3ヶ月前と変わらない。	
		住宅販売会社	企業の業績は良くなっていても、従業員の給料に反映されていないため、客の反応は依然として厳しいものがある。	
		住宅販売会社	定率減税の廃止や住民税引き上げ等により、今後に不安を抱く人が多い。一部の大手企業や銀行などは好景気だが、中小企業や社員個人には依然として厳しい状態が続いているため、住宅建設についても足踏みする人が多い。	
	企業	農業関係者	暖冬で、適度な降雨もあり、農作物の生育は順調である。しかし、市場には安価な葉物類が溢れんばかり、所狭しと並べられており、農業従事者は、大きな溜息をついている。周囲のメロン農家だけが活気付いているように見える。	
		製造業（食料品）	年度が替わっても、景況には変化がない。	
		製造業（飼料）	食品・飼料業界では、原料高・製品安の傾向は変わらない。	
		製造業（印刷・同関連業）	悪化してはいないと思うが、良くもなっていない。	
		製造業（化学工業）	新しい四半期に入ったが、売上げは横這いである。	
		製造業（化学工業）	原油高騰によりコストは上昇したが、需要は活発で価格に転嫁出来ているため、大きな影響はない。	
		製造業（窯業・土石製品）	大手鉄鋼企業の設備投資は、前年を上回る規模で実施されている。また、雇用面においても、新規高卒者の就職率が管内・県内とも100%に近く、各企業では採用に苦慮しているという話を聞く。このような状況からは、景気は回復基調にあると察せられるが、LPGやガソリン関係の企業等では、生き残りのため顧客拡張に必死だという話もあり、全体的には改善傾向までは達していないと思われる。	
		製造業（鉄鋼業）	フル生産の状態が続いている。	
		金融業	取引先のどの業種を見ても、特別な変化は見られない。	
		サービス業	外部からの受注量は低迷している。但し、年度初めに受注した仕事により、売上げは前年同期並みを維持している。	
	雇用	人材派遣業	鹿島コンビナート内の企業各社が繁忙を極めているため、派遣要請が多い。中でも、圧倒的に要請が多いのは、現業部門や技術系の人材だが、求人に比べ人材が不足状態にある。	
	や や 悪 く な っ て い る	家計	商店街代表者	ほとんどの家庭で、収入の割に支出、特に固定支出が多いため、将来の収入増が見込めない状況下では、節約ムードが蔓延するのは必定である。通勤には燃費の良い軽自動車を使う人が目立つようになったし、子供達の小遣いにまで影響が出ているようだ。
			自動車販売店	ガソリン価格の値上がりに伴い、軽自動車やコンパクトカーへの乗り換えが多くなった。
			小売業（菓子販売店）	客数、客単価とも減少している。活気がない。
小売業（薬品店）			年金問題などの社会不安により、消費者の購買意欲が減退しているようだ。	
小売業（金物店）			建設現場が少なく、金物需要も少ない。	
日本料理店			個人客は多少増加したが、企業の接待客は減少している。トータルで考えると、やや悪くなっている気がする。	
タクシー運転手			利用客数が減少している。また、乗車客との会話の中でも、明るい話題が少ない。	
パチンコ店			来店頻度が低下し、滞留時間も短くなっている。	
クリーニング店			ある縫製会社では、人件費が高み、給料を2ヶ月遅れで月2回に分割して支払ったらしい。資金を銀行から借りようにも、金利が上昇しており、困難なようだ。また、農家では、5月の降ひょうにより、野菜や葉たばこの生産に被害が出ている。	
企業		水産業関係者	漁獲量の減少に伴い、漁業、水産加工業、関連産業の稼働率、取扱高、売上等も減少傾向である。	
	運輸業（道路貨物運送業）	取引先の陸上輸送量が若干減少しているため、やや売上げが悪化している。		
	保険業	収入は増えないのに、定率減税の廃止や住民税アップ等、税の負担感は増加している。		
悪	家計	観光型ホテル	利用客数が減少している。	
		タクシー運転手	乗客の話を聞いていると、景気は悪くなっているように感じる。	

(4) 県南地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良くなっている	家計	スーパー	売上げも客数も順調に伸びている。土・日に関しては、前年比110%と好調である。
		スーパー	3ヶ月前と比較して、客数も売上げも伸びている。
		美容室	つくばエクスプレスの開業に伴い、筑波山神社への参拝者が増加している。また、神社での挙式数も前年を上回っており、美容室の利用客も増加している。
	企業	製造業（食料品）	5～6月は、新緑の季節でもあり、例年購買ムードが高まる時期である。
やや良くなっている	家計	商店街代表者	売上が伸びている。
		スーパー	僅かながら、客単価や買い上げ点数が増加している。
		スーパー	客単価が上昇している。また、暑くなってきたので、水物の動きが良好である。
		都市型ホテル	個人の懐具合も良くなってきたのか、多少商品の単価を上げても、メニュー選択に影響がない。以前と比べ、財布のヒモが緩くなったと感じる。
		都市型ホテル	パーティーや宴会の数が増加してきた。宿泊も、出張客が多く、平日の稼働率が上がっている。
		旅行代理店	行楽シーズンを迎えることもあるが、客の態度にも、「やり繰りして、どこかへ行きたい」という意欲が感じられるようになった。
		ゴルフ場	平日の来場者が増加している。コンペの申込みもやや増加した。
		ゴルフ場	前年に比べ、来場者が増加している。また、土日の予約が埋まるのも早くなっている。
		住宅販売会社	客の業種によっては、良い動きが見られる。
	企業	製造業（印刷・同関連業）	年度末から多忙な状態が続いている。周囲でも、多少景気が上向いているようだ。
		製造業（一般機械器具）	求人広告の数が増加している。また、企業の給与水準も上がってきているように思える。
		運輸業（倉庫業）	業種にもよるが、動きの少ない商品と、増産し在庫として常時保管している商品がある。3ヶ月前と比較すると、ある程度活発に動きそうだ。
	雇用	人材派遣業	派遣社員から契約社員等の直接採用へ切り替える会社が増えてきた。
公共職業安定所		求人の受理件数が増加傾向にある一方、求職者は減少している。	
学校就業関係者		進路説明会などに参加すると、県立の専門学校よりも、私立の専門学校や大学の方に、参加人数が多いと感じる。私立は、設備が充実している分、授業料等も高額だが、それだけの教育費を捻出する余裕が家計に出てきたのかもしれない。当校に対する求人は、昨年より引き続き順調だが、直接取締役が来校するなど、昨年よりも企業側の熱意を感じる。	
雇用相談員		大手製造メーカーを中心に、下請け、孫請けと受注残が増加し、交代制勤務でフル稼働の状態が続いている。雇用面でも、契約社員から正社員へ雇用形態が変化しつつある。同じ状況は、システム開発の企業にも見られる。また、つくばエクスプレス沿線でのマンション建設や商業施設のオープンに関連し、建築・建設業界でも徐々に好況の恩恵を受けつつあるようだ。	
変わらない	家計	コンビニエンスストア	給料が多少増えても、住民税の負担増や年金問題などによる不安感から、消費の拡大にはつながっていない。
		コンビニエンスストア	来店客数、客単価ともに大きな変化はない。購入パターンも変わらない。
		衣料品販売店	暖冬などの気候要因もあるが、昨年同水準の売上達成がなかなか難しい。
		農産物直売所	暖冬のため野菜類は豊作だが、価格が低迷して売上げ増に結びつかない。また、再三の降ひょう被害により、作柄が良くないものも多く、野菜類及び果実類の売上げ減が続いている。一方、米については、昨年比120%以上の売上げ増が続いている。
		農産物直売所	客数、売上げに変化はない。
		専門スーパー	安売りのチラシを折り込んで、大きな消費の変化がない。通常、原材料高に伴う商品値上げが報道されると、値上げ前に消費は伸びるものだが、それも見受けられない。
		和食食堂	客数に変化がない。
		寿司店	予約が入り、張り切って準備をしても、結局キャンセルになってしまったり、低空飛行のままで変わらない。

(4) 県南地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
変 わ ら な い	家計	旅行代理店	ツアーの予約状況を見ると、申込人員には増減がない。
		タクシー運転手	固定客の利用がほとんどで、フリー客の利用が増えない。
		パチンコ店	稼働率や売上げは、以前とあまり変わらない。
		レジャー施設	6～9月が繁忙期だが、現在、霞ヶ浦で船を利用するレジャーを楽しむ人が減少しているため、売上げはあまり変わらないと思う。
		建築設計事務所	受注件数は相変わらず少ない。
	企業	農業関係者	兼業農家、担い手農家、それぞれに不安感がある。水田農業では、生計を営めないことへの無力感が感じられる。転作への拒絶反応も強い。
		製造業(食料品)	連休により多少売上げが伸びるかと期待していたが、期待した程の伸びはなかった。
		建設業(設備工事業)	仕事の量は概ね変わっていない。個人客の受注は、例年どおり少しずつきているが、公官庁関係の仕事は、低価格のものが多くなってきた。
		金融業	地元中小企業の設備投資は、マスコミ等で報じられる程盛んではない。活発な設備投資は、一部特定地域に限定した話だと思う。
		不動産業	良くなっている場所・物件・顧客と、悪くなっている場所・物件・顧客を相殺すると、全体的には大きな変化がない。
や や 悪 く な っ て い る	家計	スーパー	対前年同期と比べ、売上高も客数も減少している。目標額の達成は厳しい状況である。
		自動車販売店	新車が売れない。
		洋食食堂	来店客の様子に変化はないが、客数が若干減少している。
		タクシー運転手	収入減に加え負担増では、個人消費に活気は望めない。
		タクシー運転手	売上げが落ちた。
	企業	製造業(食料品)	全体的に発注数が減少している。発注者は、廃棄ロスを如何に削減するかという観点で発注数を決定しているようだ。それだけ消費動向も鈍化しているのだと推測される。
		製造業(窯業・土石製品)	官公庁の年度末需要も一段落してきた。
		建設業	前回調査時には、3ヶ月後はかなり良くなると予想したが、5月に入って受注がピタリと止まった。1千万円以上の受注はほとんどなく、100万円以下の物件がポツリと入る程度である。
		建設業	3月までは、年度末需要で受注や工事高も多かったが、5月以降は、例年通り仕事量が減少している。また、コストダウンも依然として続いている。
	雇用	求人広告	既存の企業や店舗の閉鎖が目立っている。後に、新しい企業や店舗が入ることもないままの状態に放置されており、このような景観を見てみると、「消費の拡大=景気が良い」のではないことを実感する。
悪 く な っ て い る	家計	ガソリンスタンド	セルフサービスのガソリンスタンドが増加し、現在はセルフ同士の価格競争になっている。また、原油価格の高騰に伴い、マージンすら十分に確保できない状況で、ガソリンスタンドの経営収支は益々悪化するとされる。このままでは、今後3年間のうちに、現在、全国に約45,000件あるスタンドのうち、1/3は閉鎖に追い込まれるのではないかと。
		洋食食堂	街の中が静かである。特に、5月に入ってからの落ち込みが、昼夜ともに激しかった。
	企業	製造業(非鉄金属)	5月の売上げ実績は、対前年比で4%減少する一方、材料価格は前年より大幅に上昇している。一部メーカーには、商品への価格転嫁を了承してもらったものの、原材料費の高値安定に加えてガス料金も値上がりしており、売上げの低迷と相まって、収益力が著しく低下している。

(5) 県西地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良	家計	家電販売店	価値のある商品に関しては支出を惜しまない客が、3ヶ月前と比べ多い気がする。季節的な影響のあるエアコンを除いても、売上げ実績が伸びている。
やや良くなっている	家計	農産物直売所	客単価が上昇している。比較的高額な商品も売れてきている。
		ガソリンスタンド	ショッピングモールがオープンしたことに伴い、利用客数が増加した。
		都市型ホテル	客数が増加している。また、客の表情を見ても、以前より元気があるような気がする。
		旅行代理店	今まで旅行を差し控えていた企業等から、数件受注が入っている。
		ゴルフ場	予約件数や来場者数が増加している。
		ゴルフ場	客単価は横這いだが、来場回数は増加傾向である。
		クリーニング店	春先の天候が寒く、冬物のクリーニングの出足が鈍かったが、その分これから夏までの伸びが期待できる。
	建築設計事務所	多少、仕事の話や動きが出てきた。	
	企業	農業関係者	農産物価格は安定し、商品の動きも良くなっている。
		製造業（食料品）	暖冬のため、冬用に開発した商品の売れ行きは惨憺たるものだった。冬に業績が底を打ったので、春のキャンペーンでの手応えが良い。
		製造業（化学工業）	半導体関連が堅調なうえ、携帯やアミューズメント機器など、民生関連の材料の動きが良い。
		製造業（窯業・土石製品）	予想に反して、少し忙しい状況である。中国の石材加工会社と受注競争をしても、価格面で太刀打ちできないため、現在は、中国のメーカーで起こったトラブルを解決する仕事に特化している。
		不動産業	好物件は、あまり時間を要せずに売買が成立するようになった。
	雇用	公共職業安定所	求人数は、前年同期比で12.6%増加している。また、パートの時給も1時間あたり50円程度アップしている。
学校就業関係者		求人が昨年より早めに出てきている。募集先は派遣会社が多い。	
変わらない	家計	スーパー	売上げや客数に変化は見られない。
		スーパー	1人あたりの買上金額に変化がない。
		スーパー	客の買物動向から判断して、大きな変化はない。客単価も昨年と同程度である。
		コンビニエンスストア	客単価は以前より低下しているものの、気温の上昇に伴い、週末の売上げは改善傾向にある。
		和食食堂	客数に大きな変化は見られないが、客単価は減少している。
		和食食堂	3ヶ月前と比べると売上は落ちているが、前年同月と同程度である。
		和食レストラン、割烹	3ヶ月前は、多少好転の気配があったが、現在は全く変わらない。マスコミで報道している景気は、都市部の感覚だと思う。地方でそれを実感するには、あと3年位かかるのではないかと。
		都市型ホテル	接客の際も、景気が良くなっているという話は、あまり聞こえない。
		タクシー運転手	5月は毎年売上げが落ち込むが、6月に入り持ち直しの傾向が見える。
		タクシー運転手	例年この時期は、気候が穏やかなため、利用者は減少するが、現在乗務員が不足しているため、売上げは横這いである。
		タクシー運転手	乗客の話にも、明るい話題は出てこない。
		タクシー運転手	前回同様、景気に安定感がない。特に商店街など、地元の買い物客に活気が感じられない。
		ドライブイン	連休中でも、客数や売上げに変化は見られない。
		パチンコ店	業界全体の景気は悪化しているものの、今のところ客数に大きな変化はない。

(5) 県西地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
変 わ ら な い	家計	ゲームセンター	先月のリニューアルオープン時には、一時的に集客数が上がったものの、現在は以前と変わらない売上げに戻った。
		理容店	現在の景気に慣れてしまっているようだ。
		住宅販売会社	金利上昇などの不安要素があるため、様子見の客が多く、売上げには変化がない。
	企業	農業関係者	都市部だけでなく地方でも回復基調だと、話題にはなるが、景気変動の実感はない。直売所の客の購買状況を見ても、相変わらず必要なものしか買って行かない。特に、女性の衝動買いは減ったと思う。
		製造業（食料品）	原油価格の高騰に続き、とうもろこしや大豆、大麦等の輸入農産物原料の価格も高騰し、全面的な製品への価格転嫁が難しい。
		製造業（印刷・同関連業）	県南の大手印刷会社が倒産した。印刷業界を取り巻く構造的なデフレは止まっていない。
		製造業（一般機械器具）	取引先の中には、前月は大量発注だったのに、今月は発注ゼロの所がある。
		製造業（電気機械器具）	対応する来客数や雑談の内容に変化が見られない。
		金融業	企業の決算状況は、見込みも含めて、黒字計上傾向であり、表面上は、景気に緩やかな回復の動きがあるように見える。しかし、黒字の要因が、財務内容の見直しや改善努力によるものであることから考えると、景況感に実質的な変化はないと思われる。
	雇用	サービス業（コンサルタント業）	大きな変化は見られない。
人材派遣業		受注が横這いである。	
や や 悪 く な っ て い る	家計	就職相談員	求人・求職ともに、あまり動きがない。
		商店街代表者	売上げ、客数ともに減少している。
		商店街代表者	前年比で売上げが、やや鈍化している。
		衣料品販売店	商品の取扱い状況や在庫の有無についての電話照会が増加している。無駄足せず、確実に商品を購入する「目的買い」の傾向が見られる。その分、何か面白いものはないかと好奇心を持って来店する客が減少しており、「買い回り」による売上構成率が落ちている。
		自動車販売店	販売台数が対前年同月値を割っている。
		専門スーパー	ガソリンや食料品が値上がりしているのに、所得水準が変わらないため、買い渋りがおきている。
		ドライブイン	入場者数は前年と比較して増加しているが、売上げが伸び悩んでいる。
	レジャー施設	灯油やガソリンの価格が再び不安定になり、客の様子からは、余計な支出を抑える傾向が伺える。また、平日と土・日の差が明確に表れるようになった。	
	企業	求人広告	求人広告の仕事が減少している。
		製造業（印刷・同関連業）	3ヶ月前は、統一地方選挙を控え、何とか活気もあったが、現在は景気まで落ちてしまったようだ。当社でも、例年のことだが、夏季を間近にして、仕事が激減している。
製造業（金属製品）		新規の引き合い件数が低調である。また、素材費の値上がりにより反比例して、部品コストは下がっている。	
建設業		原油価格の高騰に伴う建設材料の値上がりや、運送コストの上昇により、収益が圧迫されている。	
悪	サービス業（広告業）	3月までは売上を維持していたが、それ以降は悪化している。客先の様子を見ると、経費を出来る限り抑えねばならないため、迷っているというより、諦めている感じがする。	
	企業 製造業（窯業・土石製品）	例年であれば、年明けから2月にかけては落ち込むものの、春以降持ち直すのだが、今年は受注が少ないままである。お盆前の受注に期待しているが、動きは鈍い。	

景気の判断理由

2 景気の先行き判断理由

(1) 県北地域 【先行き】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良	家計	ゲームセンター	イベントやゲーム大会などを頻繁に実施していけば、客数も売上げも良くなっていくと思う。
やや良くなっている	家計	スーパー	買い上げ点数や客単価は、この先も順調に伸びると思う。不安材料としては、原油高に伴うコストの跳ね返りが懸念されるが、3ヶ月先ではそれ程影響はないと思われる。
		農産物直売所	例年、観光客が徐々に多くなる時期であり、売上も伸びてくると思う。
		小売業(水産物)	夏休みなどで、客数も多少増加すると思う。
		和食食堂	暑くなれば、ざるそばや冷たぬきなどの夏メニューの注文が増える。梅雨時にも安定して出るメニューがあるが、冷夏は売上げに響くので勘弁してほしい。
		観光型ホテル	6月よりも、7～8月の方が、客の動向が活気付いている。
		タクシー運転手	企業のボーナスシーズン後なので、多少売上げも改善すると思う。
		ゴルフ場	来場者数は前年比より増加している。また、取引業者の話などを聞くと、食材の動きも活発になっているようだ。ゴルフ業界も、外資の参入等により、運営が正常化しつつあるようなので、今後の動きに期待したい。
		レジャー施設	周辺地域では、大型ショッピングモールの建設が決定し、飲食店も数軒、次々に開店している。当施設の利用者も、今後増加すると思われる。
	企業	水産業関係者	6月以降、漁獲量の復活が期待されるが、原油の高騰が懸念材料である。
		製造業(電気機械器具)	3ヶ月先まで受注案件がある。
		不動産業	新規分譲マンションの販売が開始された。更に、大型商業施設の出店や健康増進施設の建設等が予定され、街全体に活気が出てきた。今後、不動産も動くのではないかと期待している。
	雇用	求人広告	水戸市以南に動きが出てきており、吊られるようにやや良くなっていくのではないかと。県北地域としての自発的な改善ではなく、受動的な動きになると思う。
		公共職業安定所	求職者は引き続き減少し、求人は増加傾向で推移していくものと思われる。原油価格の影響については、懸念する声は少なくなってきた。建設業関係からは、仕事量が増加してきたとの声が聞かれる。
	変わらない	家計	商店街代表者
スーパー			景気は回復傾向と報道されているが、前年同期と比較しても良くなったとは思わない。
コンビニエンスストア			この先3ヶ月間で、小売業を取り巻く環境に、大きな転機が起きるとは考えられない。客単価の下落は続いており、依然光は見えてこない。
衣料品販売店			周囲でも、住民税の引き上げやガソリン価格の上昇などの話題は多いが、給料が上がったという類の話は全く聞かない。この先も消費拡大への期待は薄い。
衣料品販売店			現状のまま推移すると思う。
自動車販売店			自動車輸出が好調などと報道されるが、国内での自動車販売を取り巻く環境は決して良好ではない。
ガソリンスタンド			卸価格の上昇に伴い、消費者の買い渋りは続くと思う。
小売業(酒類)			海水浴客など、遠方からの客数は例年並みに期待できると思う。
小売業(靴製品)			ヒット商品がなく、3ヶ月先も売上げが伸びそうな気がしない。
レストラン			現状が変わらなければ、先行きにも大きな変化はないと思う。
居酒屋			過去3ヶ月で動きが無かったように、この先3ヶ月も変化はないと思う。
観光型ホテル			定率減税の廃止や住民税の引き上げなどにより、何となく先行きに不安感があるため、観光レジャーなどへの消費支出の伸びは期待できないと思う。
旅行代理店			特に県北地区では、上向きの情報がない。
タクシー運転手			7～9月の期間は、地元大企業の夏季休暇のため、タクシー利用者は減少するものの、その分を異動に伴う利用者が補ってくれると見込んでいる。ボーナスについては、多少落ちているという話を聞いたので、あまり期待はできないと思う。

(1) 県北地域 【先行き】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
変 わ ら な い	家計	ドライブイン	猛暑でも、冷夏でも、その時々売れ筋はあるので、売上自体に大きな変化はないと思うが、今から夏の天候が気にかかる。
		レジャー施設	必要最低限の支出に抑えた買い方が多いように思う。
		美容室	特別の要因がなく、変わらないと思う。
		住宅販売会社	3ヶ月というスパンでは、変化はないと思う。
	企業	林業関係者	間伐等の契約が上期に集中しているため、各業者が一斉に作業を行う時期である。このため、市場の動きは横這い傾向と見込まれる。
		製造業（食料品）	金利の上昇や資材価格の値上がり等による収益の悪化は、経営努力でカバーしていくしかない。中小企業では、そのような努力をしている所も多いと思われる。石油製品のほか、日用品も値上がりしており、今後買い控えが懸念される。
		製造業（電気機械器具）	特に変化を感じない
		製造業（電気機械器具）	今後の仕事量については、取引先企業からも、横這いか上向きとの情報が多く、期待できる状況である。但し、ステンレス材料を使用した購入部品が、更に値上げの方向にあり、加工賃の収益を圧迫すると見込まれるため、全体的には現状維持で推移するのではないかと。
		製造業（電気機械器具）	現状より、上昇あるいは下降する要因は今のところない。
		製造業（電気機械器具）	周囲で先行きが良くなるという話は聞かない。近くの工業団地内の企業でも、そのような話はないようだ。
建設業		社会・経済の動きによっては、少しずつ業況にも変化が出てくるのではないかと。特に、民間の動きを期待したい。	
情報通信業（情報サービス業）		商談数は増加していくと思うが、受注競争は今後も激しくなると見込まれるため、収益が改善する要素がない。	
雇用	金融業	県北地域は、地元大企業の影響が大きいので、当該企業の業況が改善されない限り、景気が好転することはないと思う。	
	学校就業関係者	求人増は現期間に限定したものであり、今後増加するとは思えない。企業からの申込みが多い研修も、新入社員教育用のものが主であり、今後の研修希望者数は例年並みと予想される。	
や や 悪 く な っ て い る	家計	求人開拓員	新年度の目標設定を、昨年度よりアップさせた事業所でも、厳しい状況だと経営者は話している。
		スーパー	原材料値上がり分の食料品価格への転嫁幅は、製造メーカーによってバラツキが目立つ。企業体力に応じて、商品価格も二極化していくのではないかと。また、食料品に追随して、他の商品の値上がりも予想されることから、今後消費動向は鈍化すると思う。
		家電販売店	昨年は、サッカーワールドカップのようなイベントがあり、AV商品の売れ行きが全般的に良かったが、今年は売り上げを押し上げる要因も商品も見当たらない。
		観光型ホテル	日帰り宴会の予約が減少傾向にある。宿泊予約の問い合わせも、昨年同期と比較して減少している。
		タクシー運転手	ガソリンや飲食料品の値上げが続く中、タクシー料金も年内には値上げになると思う。これに伴い、客足は減少すると見込まれるため、将来に期待はできない。
	企業	クリーニング店	原油価格の上昇に伴い、クリーニング業界でもビニール製包装品が値上がりし、粗利が大きく減少している。客からも、景気の悪い話はあまり聞かない。
		製造業（電気機械器具）	現在抱えている輸出案件が、3ヶ月先には現地生産化される予定であり、落ち込みを予想する。
		製造業（輸送用機械器具）	銅、原油、ニッケルなどの市況価格の高止まりは、すぐに改善するとは思えない。更に悪化することも予想されるうえ、値上がり分の転嫁状況によっては、価格競争が益々熾烈化することも懸念される。
	雇用	人材派遣業	現在が安定しているため、先行きは若干悪くなるのではないかと。
	悪	家計	パチンコ店

(2) 県央地域 【先行き】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良	家計	美容室	お盆の前後は忙しくなると思う。
	企業	製造業(精密機械器具)	相手先商標製品の先行発注の動きが具体化しつつあり、自社製品の売り上げが今ひとつ振るわない中、大いに期待できる。
やや良くなっている	家計	商店街代表者	県内の銀行の業績が軒並み回復しているようなので、このことが、少しずつでも景気アップに繋がっていくことを期待したい。
		観光型ホテル	秋口の予約が堅調である。
		ドライブイン	今年の夏は暑いらしい。天気が良いと、客の動きも期待できる。
		ドライブイン	9月になると、秋の観光シーズンに入り、他県からの観光バスも増え、確実に客数も伸びると思う。
		ゲームセンター	夏休みに入り、人の動きも活発になると思う。
		レジャー施設	施設の利用回数や人数が、前年同期より増加しており、この傾向は暫く継続するものと見込まれる。
	企業	製造業(金属製品)	3ヶ月先の手持工事量を確保しており、引き続き、客先からの受注を見込むことができる。また、取引先の建設会社の工事量も増加しているように思われる。
		金融業	仕事は増加しているが、利幅は以前より縮小している。希望的観測ではあるが、3ヶ月先には多少なり改善して欲しい。
	雇用	公共職業安定所	中元時期のアルバイトの求人募集がある。また、茨城工業団地に進出予定企業があり、雇用が見込まれる。
	変 わ ら な い	家計	商店街代表者
百貨店, 総合スーパー			催事期間中は、集客も売上げも堅調に伸びると思うが、それ以外の期間は、客数、売上げともに厳しい状況が続くと予想される。
スーパー			今後も、客数、客単価に大幅な変化はないと思われる。
スーパー			良くはならないと思うが、今以上悪くならないよう対策を講じる必要があると思う。
スーパー			円安などで、物価は上昇気味であるものの、雇用状況は大きな変化もなく上向きであり、景気の落ち込みを心配する程でもない。
スーパー			特に大きな変化はないと思う。
自動車販売店			消費者の警戒感が強く、当分の間、回復は見込めない気がする。
農産物直売所			客単価は上昇しているが、以前のようにまとめ買いする客が減少しているので、それを考慮すると、この先の伸びはあまり期待できないと思う。
専門スーパー			特に変化は見られない。
専門スーパー			様々な商品が値上げされているため、通常は夏のボーナスシーズン以降に強まる客の購買意欲が、弱まるのではないかと懸念している。
レストラン			良くなる要素は見当たらないので、状況は変わらないと思う。
ファミリーレストラン			業務努力により、良好な現状を維持したい。
都市型ホテル			先の見通しとして、景気が改善するような要因はない。
都市型ホテル			秋以降の予約もあまり芳しくない。
旅行代理店			原油高、円安・ドル高・ユーロ高などの影響がじわじわと出つつあり、消費者にも海外渡航を控える傾向がある。その分、国内旅行の拡大を願っているが、申込状況から判断して、今月と同程度か、やや縮小気味になると見込まれる。
タクシー運転手			客数に変化はないものの、乗客の様子や会話からは、景気の上昇どころか変化の気配も感じられない。先の見えない状況だが、当面現状維持だと思う。
タクシー運転手			8月の行楽シーズンも終わり、プラスになる材料がない。

(2) 県央地域 【先行き】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
変 わ ら な い	家計	タクシー運転手	この先、低所得者層の収入が増える要素はなく、消費の拡大にも結びつかないと予想される。また、一定所得以上の層においても、年金、介護、医療等に関する不安が大きく、支出を控える傾向があり、景気が上向くことは考えにくい。
		タクシー運転手	3ヶ月という短期間では、目立った景気の変化はないと思う。
		観光名所	3ヶ月先は、目立ったイベントのない時期である。予約状況も例年並みに留まっている。
		ゴルフ場	例年7～9月は、特別優待サービスの効果により、予約件数は伸びると見込まれるが、収益的には伸びてこないと思う。
		パチンコ店	雨が降ると、客入りが3割増しになるのだが、今年は梅雨入り後も晴天が続いており、パチンコよりも行楽・観光レジャーの方へ客足が流れてしまうのではと懸念している。
		理容店	理容業界では、景気が良くなったという話は聞かない。当面、このまま推移するのではないかと。
		住宅販売会社	良くなる兆候は見られない。
変 わ ら な い	企業	製造業(印刷・同関連業)	この先、原材料費の値上げが予想されるため、せめて売上が落ちこまないように努力したい。
		製造業(印刷・同関連業)	特に目立った要素が見当たらない。
		製造業(窯業・土石製品)	3ヶ月先の受注状況も芳しくないで、「やや悪い」まま推移すると思う。
		運輸業(道路貨物運送業)	貨物の動きに大きな変化は見られないが、燃料価格の上昇が懸念される。
		情報通信業(情報サービス業)	参議院選挙の結果も、地方景気には影響ないと思われ、3ヶ月後も現状と大きな変化はないと思う。但し、個人消費の面では、定率減税の廃止や住民税の引き上げに伴う家計収入への影響が、年末にかけて消費意欲を停滞させる不安がある。
		不動産業	人口の流入、増加がない限り、大幅に景気が良くなるとは思えない。
変 わ ら な い	雇用	人材派遣業	企業の採用活動は、現在と変わらない堅調な動きを見せるだろうが、お盆を挟むため、9月ではまだ、それほど活性化しないと思われる。
		求人広告	ショッピングセンターや工場が新たに立地するという話もあるが、広告業としてはあまり変わらない気がする。
		学校就業関係者	就職情報産業からの情報などをもとに判断すると、現在の比較的好調な内定状況は、ここ暫く続くのではないかとと思われる。
		求人開拓員	個々には、鉄鋼業がやや良くなっていると思うが、全体的には、変わる要素は感じられない。
変 わ ら な い	家計	百貨店、総合スーパー	年金問題や住民税の引き上げなど、一般家庭では将来への不安を抱えながら、余裕のない生活を余儀なくされていると思う。夏物クリアランスセールなど、お買い得感・値ごろ感を強く感じる催事への集客は賑わうものの、長い期間は続かない。
		割烹料理店	街中では、コンビニや弁当屋が目につく。買ってすぐ食事ができるような気軽さを、消費者は求めているのかもしれない。
		レジャー施設	定率減税廃止や住民税引き上げ等による家庭の収入減や、6月からの各種生活用品の値上げなどの影響か、ファミリー層のお土産購入単価が減少し始めているように感じる。
	変 わ ら な い	企業	農業関係者
製造業(一般機械器具)			中には良い話もあるようだが、鋼材やガソリン、アルミ材等の値上げ及び金利の上昇などを考慮すると、先行きの景況は悪化すると思う。
サービス業(広告業)			チェーン店の店舗撤退や個人店の倒産も多くなってきている。消費行動の活性化傾向は全く見られない。
サービス業(コソカト業)			中心市街地の衰退化が構造的に進展している。市場のグローバル化に対して、ローカルマーケットが陳腐化しているのではないかと。
悪	企業	製造業(食料品)	実質増税と原材料高に伴う製品価格の引き上げが、売上に大きな影響を与えると予想される。
		建設業	顧客の所を廻っても、発注量が増加しない。職種が違って、景気が良くなる材料がない。

(3) 鹿行地域 【先行き】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良	家計	小売業(書店)	なし
やや良くなっている	家計	スーパー	最近、客単価がやや上昇してきている。また、気温の上昇とともに涼味商材の動きが活発になるため、好調な売上げを維持できると思う。但し、様々な商品の原材料が値上がりしているため、価格転嫁が消費動向にどこまで影響するか気にかかる。
		農産物直売所	平日の客数が増加している。また、団体ツアーの客単価が上がっている。
		洋食食堂	夏場の繁忙期を迎えるため、売上げも伸びると思う。
		観光型ホテル	予約状況から判断して、やや良くなると思う。
		タクシー運転手	地元の大手鉄鋼メーカーの業績が好調で、株価も年初以来右肩上がりである。希望的観測ではあるが、このままの状態が続けば、社員への給料も増え、関連会社の業績も向上し、少しずつ景気が良くなっていくのではないかと。
		タクシー運転手	飲酒運転の取り締まりが強化されたためか、運転代行やタクシーの利用が増加している。但し、景気回復といえる程の売上げ増にまでは至っていない。
		観光名所	仕事が一段落して、休日に観光地巡りをしている人々が増加している。少しは余裕が出てきたのかもしれない。
		理容店	夏場は客の回転率が早い。
	企業	製造業(食料品)	サマーギフトシーズンに入り、消費者の購買意欲が増加する。
		製造業(化学工業)	取引先の製紙会社が、報道機関に取り上げられた。これに伴い、売上げが伸びるのではないかと期待している。
		建設業	鹿嶋市周辺地域での、旺盛な住宅建築は、この先も当分の間続くと思われる。
		運輸業(道路貨物運送業)	現在保有している潤沢な在庫のほかに、この先も固定顧客及び新規顧客からの在庫予定がある。これから夏物商品が動くので、7~8月の天候が気になるところである。暑い日が続くことを期待している。
		不動産業	企業の進出やプラントの増設が今年は続いており、景気は良くなっていると感じる。また、人材の募集も多い。
	雇用	公共職業安定所	以前より、大企業からは業績の伸びが報告されていたが、中小企業からも明るさが見えてきたとの声が聞かれるようになった。従業員規模30人以上の製造業などの事業所から、求人が増加している。
変わらな	家計	商店街代表者	景気は、これ以上下がらない底の部分から少しは良くなっていると思う。しかし、定率減税の廃止による増税感から、消費者の金銭感覚は敏感になっているため、大きな変化はないのではないかと。
		商店街代表者	ここ数年、景気の変化は感じられなかった。今年一杯も、同じような状態が続くのではないかと。
		コンビニエンスストア	空梅雨であれば、売上げ増が見込めるものの、天候は不透明であり、現状では大きな変化はないと考えている。
		コンビニエンスストア	ボーナス支給額は増加傾向とのことだが、定率減税の廃止や住民税の引き上げなどの心理的影響により、消費動向には変化がないと思う。
		家電販売店	価格に対する消費者の目は依然としてシビアである。価格競争は当面続くと思われる。
		小売業(菓子販売店)	地方の商店街は壊滅状態で、客数、客単価の減少傾向に歯止めをかける要素がない。景気は変わらないと思う。
		小売業(酒類)	良くなる要因も、悪くなる要因もない。
		小売業(金物店)	少しずつ良くなると思うが、急には変わらないと思う。
		衣料品販売店	以前と比較して、若干客単価は上がっているものの、益々伸びるという手応えは感じられない。
		ドライブイン	個人所得が伸びない限り、大きな景気回復や消費拡大には繋がらないと思う。
		室内装飾業	依然として、景気好転への決定的な要素が見当たらない。地域によっては非常に忙しいと関係者から聞くが、周辺地域にはそのような様子は感じられない。
		住宅販売会社	給与の改善など好景気の恩恵が企業から個人へと浸透していけば、景気にも変化が見られるだろうが、今のところまだ、そうなる要素がない。
		住宅販売会社	将来への不安が払拭されない限り、住宅建設についても大きな変化はないと思う。

(3) 鹿行地域 【先行き】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由
変 わ ら な い	企業	農業関係者	毎年同じ作物を作っているが、大幅な収益アップは見込めない。だが、農業従事者には高齢の者も多く、特殊作物に切り替えるのも困難である。結局、作り慣れた作物に賭けるしかない状況である。
		水産業関係者	魚群の移動に伴い、今後は漁業生産の水揚地が三陸方面に移る。また、加工業においては、夏に向かい暑くなるにつれ、焼き物などの消費減少が懸念される。
		製造業（飼料）	一部の製品で値上げが見られるものの、原料高をカバーできる程ではない。
		製造業（印刷・同関連業）	悪くなる材料も見当たらないが、大きく改善するとも思えない。
		製造業（窯業・土石製品）	当社の親会社でも、設備修繕を終え、稼働に向け順調に進行中だが、原油高に伴う輸送コスト増や、公共事業の減少により、厳しい状況は続いている。昨年は、民間企業からの採算品の大口需要という明るい材料があったが、今年は、羽田空港拡張工事等に伴う製品受注に左右される状況である。夏のボーナスは、鉄鋼業及び関係グループとも過去最高水準で支給される見込みであり、これにより個人消費にも多少なり良い影響が出ると思われるが、景気を左右する程の伸びとは考えられないため、現状維持で推移すると判断した。
		製造業（鉄鋼業）	急に状況が変わるとは考えにくく、引き続き良い状態が続くと思われる。
		運輸業（道路貨物運送業）	計画運搬量や取扱予定量が多少伸びるとの情報があり、期待したいところだが、自動車の生産量などもあまり増加していないので、この先の運搬量も現状ベースとの声が多い。
		金融業	3ヶ月前と比較して変化がないのと同様、今後も変化するとは思えない。
		サービス業	大きく変わらないと思う。今後数ヶ月の受注動向に期待している。
	雇用	人材派遣業	鹿島コンビナートでの順調な生産状況から見て、現業・技術系の人材不足の状況は続くと思う。
		民間職業紹介業	登録者が増えないため、求人と求職のバランスが保てず、求人企業に対して人材紹介が満足にできない。
		学校就業関係者	現在、企業からの求人は増加しているが、鋼材等の原材料価格が値上がりしているため、求人数もいつ減になるか不安定な状況である。
		求人開拓員	原油高が一抔の不安要素だが、現況が維持されるだろうという観測が多い。
や や 悪 く な っ て い る	家計	商店街代表者	大企業の業績好調に伴い、近所の関連下請工場でも、仕事が増えてきたようだ。しかし、家計が潤うまでには暫くかかると思う。経済を人体にたとえるなら、現在の景気状況は、血液循環ともいうべき流通が滞っている、動脈瘤や脳血栓の状態ということができるのではないかと。放っておいては重篤な事態に陥る危険性がある、早期治療が必要だと思う。
		小売業（薬品店）	年金、介護など、将来への不安材料が次々に出てきており、消費者の購買意欲を回復させるのは非常に難しいと思う。
		スナック	以前は、夕方になるともう少し車の往来もあったが、現在は店の近くの大通りにも車が少ない。人や車が動かなくなっていると感じる。
		割烹料理店	夏休みも終わり、9月になると客足が鈍るので、良くなる見込みはない。
		日本料理店	良くなる話を聞かない。企業の接待客が伸びないと厳しいと思う。
		タクシー運転手	月間の売上げが落ちている。
		タクシー運転手	個人事業主の店舗閉鎖が多い気がする。
		ゴルフ場	ガソリンや各種生活用品の値上がりにより、業界の景気は悪化するのではないかと。また、ビール等、アルコールの売上減少も懸念される。
		クリーニング店	過疎化、高齢化が進み、農家は後継者不足である。ひょうで傷んだ作物は廃棄する以外なく、新しい作物を植え付けるにも、時期的に間に合わないため、秋の収穫に大きく影響することが危惧される。
企業	製造業（食料品）	例年、気温が高くなると消費は落ちる。	
	製造業（化学工業）	原油が更に高騰するようであれば、価格転嫁も難しくなると思う。次第に利益にも影響してくると予想される。	
悪く	家計	観光型ホテル	予約状況から判断して、見込みは芳しくない。
		パチンコ店	来店頻度の低下、滞留時間の短縮に加え、業界の情勢自体が悪化傾向にある。

(4) 県南地域 【先行き】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良	家計	スーパー	今後も売上げの伸びが期待できる。
やや良くなっている	家計	スーパー	飲食関係の常連客から、以前のような暗い言葉を聞かなくなった。また、レジのチェッカーの人達の声からも、買い上げ点数が増加していることが伺える。
		スーパー	店内の改装を予定しており、3ヶ月先までには、売上げも回復していると思う。
		専門スーパー	天候要因が大きく左右すると思われるが、昨年に比べ気温が高く、天気も良い傾向にあるので、この夏時期の消費は伸びると思う。それに伴い、製造・流通・消費が徐々に拡大し、景気も良くなっていくのではないかと。
		都市型ホテル	ボーナスが支給され、平年並みの気温・天候であれば、夏過ぎには景気は良くなっていると思う。今年のボーナスは、前年を上回る回復との報道があり、これに影響されて消費意欲も活性化するのではないかと。
		都市型ホテル	パーティーや宴会の予約が多数入っている。
		旅行代理店	農繁期が過ぎ、また、企業のボーナス時期にも入るので、旅行客数の増加が見込まれる。
		旅行代理店	商品の種類が増え、様々な選択肢の中から選べるようになったので、旅行者数は今後伸びていくと思われる。
		ゴルフ場	企業の接待需要が増加しているようで、割高な土・日・祝祭日の予約が、早い段階で申し込まれている。平日のコンペの数も若干増加しているように思う。
		パチンコ店	周辺に、マンションや道路が整備されたことにより、客数の増加が見込まれる。また近日、大型店舗がオープンする予定なので、これに伴う客の増加にも期待している。
		ゲームセンター	以前に比べ、客数が増加している。特に、18歳未満の子供達が頻繁に来店しているように思う。家計に余裕ができて、子供達の小遣いも増えたのかもかもしれない。
	美容室	つくばエクスプレスの開業に伴い、つくば市内へ移住してきた「新住民」が少しずつ来店している。	
	企業	製造業(印刷・同関連業)	受注量が増加している。同業他社でも、多少忙しくなっているようなので、業況はやや良くなっているのではないかと。
		運輸業(倉庫業)	例年、夏に向けて物資の動きは良くなる傾向がある。7~9月頃活発になり、10月以降は年末直前まで下降すると予想している。
雇用	公共職業安定所	求人採用計画も明るい様子である。	
変わらない	家計	スーパー	天候にもよるが、このままでいけば、好調を維持できると思う。
		コンビニエンスストア	住民税の負担増や年金問題など、将来に不安が山積しているため、買い控え傾向になると思う。ただ、今年の夏は暑くなりそうなので、飲料等の売れ行きには期待が持てそうだ。
		コンビニエンスストア	購入パターンに大きな変化が見られないため、3ヶ月先についても、景気が大きく変化するとは考えづらい。
		衣料品販売店	定率減税の廃止や住民税アップ等の影響もあり、購買意欲が上がるとは思えない。
		自動車販売店	客からも良くなる話題が聞こえてこない。
		洋食食堂	これから夏祭りなどのイベントが控えているが、あくまでも単発的なものであり、期待はできない。
		寿司店	良くなる材料が見当たらない。
		タクシー運転手	固定客の利用がほとんどで、フリー客の利用が伸び悩む現在の傾向は、今後も変わらないと思う。
		タクシー運転手	昨年末のボーナス時期も、あまり景気は良くならなかったため、夏のボーナスも期待できない。
		ゴルフ場	現在と、それ程大きく変化するとは思えない。
		建築設計事務所	県南地域では、大手住宅メーカーのマンション建設など、大規模開発が進行中だが、その影響は地元には波及していない。
住宅販売会社	金利が上がることを考えると、今より更に良くなるとは思えない。		

(4) 県南地域 【先行き】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
変わらない	企業	製造業（食料品）	8月の中元ギフトシーズンが過ぎて、9月は売上が低迷する時期である。
		製造業（食料品）	今後、景気が大きく変化する要因は見当たらない。
		製造業（窯業・土石製品）	原油価格の再値上げや、それに伴う原油加工製品の値上がりが見込まれ、先行きは不透明である。
		製造業（一般機械器具）	これ以上に景気が良くなるかどうかは分からない。
		建設業（設備工事業）	景気の動向が掴みにくい。3ヶ月程度では、あまり変化は期待できないと思う。
		金融業	地元中小企業で業況が好転している企業は少ない。また、景気回復による消費意欲の向上も見られない。
		不動産業	良くなっている場所・物件・顧客と、悪くなっている場所・物件・顧客が混在しており、全体的には大きな変化はないと思う。
雇用	求人広告	変化する要因がないため、当面現在の状態が継続すると思う。	
	学校就業関係者	求人に関しては変わらないと思う。	
	雇用相談員	今後暫くは、現状のまま推移すると思われる。但し、現在の景況感は、新興国からの需要増によるものであり、内需拡大が実感できないままでは、急激な変化はありえない。また、賃金面でも、全業種を見ても、上昇の兆しはない。都内で働く者との格差は拡大していると感じる。	
やや悪くなっている	家計	スーパー	ガソリンや食料品の値上げが相次いでおり、買い控えが懸念される。
		農産物直売所	梅、梨、プラムなどに、降ひょう被害の影響が大きく出る頃であり、売上げの減少は明白である。
		農産物直売所	ガソリンや食料品の値上がりにより、消費者の購買意欲が冷え込むことを懸念している。
		洋食食堂	近くに、大型のショッピングモールがオープンした。その中にレストランが多数出店しているため、暫くはそちらへ客が流れてしまうと思う。
		タクシー運転手	現在の社会的な流れでは、この先、企業も個人も、負担要素が増加していくと思う。また、業種を問わず、企業間競争がより激化すると予想されるため、先行きはやや悪化するのではないかと。
企業	製造業（食料品）	アウトバックの販売よりも、店内で調理して販売するケースが増加しているため、食料品製造業としては景気が悪化傾向である。また、配送コストの上昇もこれに拍車をかけている。	
	建設業	10月頃までは受注の薄い状態が続くであろう。同業者も同様の様子だった。	
悪くなっている	家計	商店街代表者	例年、売上が良くない時期である。
		ガソリンスタンド	環境問題への取り組みは避けては通れないことではあるが、バイオ燃料の開発やハイブリッドカーの普及により、ガソリンの売上げは昨年より10%程度減少している。
	企業	製造業（窯業・土石製品）	金利高、円安は当面継続することが予想される。輸出関連の大企業は恩恵を受けるだろうが、地方都市の中小企業には悪い影響が出てくるのではないかと。参議院選挙後の景気が心配である。
		製造業（非鉄金属）	主力の自動車メーカーで、国内販売不振が続いており、売上げの回復は期待し難い。ガス料金は5%値上げ、原材料価格は高値で安定、受注は横這いという状況下で、商品価格に材料分を転嫁しても、売上げは対前年比で10%程度は落ち込むことになる。この事態は、ボーナスの減額対応など、経営面の圧縮により乗り切る方針である。
		建設業	引合いの物件が極端に減少し、情報も少ない。特に、土浦市、石岡市、つくば市、かすみがうら市などからの公共工事の入札指名もほとんどなく、民間からの発注も少ない。経営好調とされる一部上場企業の設備投資の出方も渋い。これから夏にかけての受注状況が大変心配である。

(5) 県西地域 【先行き】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良	家計	衣料品販売店	売り場を現在改装中である。商品が見易く、買い易くなるよう手直ししているの、売上げも上向くと期待している。
やや良くなっている	家計	農産物直売所	夏のボーナスも期待できそうなので、景気もやや良くなるのではないかと。
		都市型ホテル	現状は良くなってきていると思うので、この先も少しずつ良くなるのではないかと。
		都市型ホテル	業種別に差はあると思うが、株価の持ち直しなど、幾分明るい材料が出てくるのではないかと。但し、原油価格がこれ以上高騰すると、業績にも影響がでると思う。
		旅行代理店	前年同期に比べ、受注見込みは良好である。
		タクシー運転手	暑い時期なので、利用者が増加すると思う。
		ゴルフ場	予約件数が順調に伸びている。
		ゴルフ場	国内男子プロゴルフツアーの最年少優勝記録を塗り替えた高校生スターの登場により、女子だけでなく、男子ゴルフの人気も高まることを期待している。また、健康志向の強い団塊世代の動きが活発になれば、先行きは良くなっていくのではないかと。
	企業	製造業（化学工業）	7～9月は、例年売上げが伸びる時期である。但し、今後の半導体関連の伸びについては不透明な部分がある。
		製造業（金属製品）	3ヶ月先まで、客先からの発注が入っている。
		不動産業	売買客が増加している。
雇用	学校就業関係者	生産見込みで、新規機械の購入計画がある企業が2社程ある。この先、少しずつ景気は良くなっていくのではないかと。	
変 わ ら な い	家計	スーパー	年金問題や食料品値上げなど、購買意欲が上がる要素はあまり見られない。
		コンビニエンスストア	コンビニだけでなく、スーパーやディスカウントストアなど、競争相手はもはや同じ業種の枠内だけに止まらない。この先、大きな伸びを期待するのは難しいと思う。
		家電販売店	景気回復に伴う消費拡大を期待するよりも、消費者の手元にある金を、如何に引き出すかが、消費拡大の鍵だと思う。
		ガソリンスタンド	周辺に新規出店等の計画や予定がないため、売上げや客数に大きな変化はないと思う。
		和食食堂	良くなる要因がない。天気、気温などにより、客数等に多少の変動はあると思うが、景気への影響は少ないと思う。
		和食食堂	昼食時の客足は伸びているが、夜の客数は逆に減少している。
		和食レストラン、割烹	景気が好転する気配がない。
		タクシー運転手	あまり変わらない。乗客の話す内容にも変化がない。
		タクシー運転手	ビジネス客だけみれば、現状と同じか、やや上向く可能性もあると感じる。ただ、地元商店街の買物客の様子からは、上向く気配は感じられない。本来ならば、ボーナス時期でもあり、中元や夏休みなどで、商店の活気も出るはずだが、期待は低い。
		ドライブイン	団体バスの昼食の予約や休憩のための立ち寄りなどは増加しているが、トイレだけの利用が多い。
		ドライブイン	景気回復を期待してはいるが、現況からは横這いと予想される。
		ゲームセンター	店舗として、ゲーム機器の追加など目新しいことをする予定もないし、地域としても特別な要素はないので、現状と変わらないと思う。
		レジャー施設	灯油やガソリン価格の不安定な状況は、当分続くと見込まれ、消費者の不安要因は減らない。よって、売上げもあまり期待できないと思う。
		理容店	良くなる要素はあまり見当たらない。
		クリーニング店	給与が増えない上に、税金やガソリンの価格は上昇、年金問題等で将来に不安がある現状では、なかなか金を使おうという気にならないのではないかと。
		建築設計事務所	仕事の話は増えても、実務的な方向になかなか向かわない。
住宅販売会社	金利上昇などの不安要素があるため、見通しが立てにくい。		

(5) 県西地域 【先行き】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
変わらない	企業	農業関係者	必要なものしか買わないという消費傾向は変わらないと思う。
		製造業(食料品)	バイオエタノール製造のため、とうもろこしや大豆、大麦等の輸入農産物原料の価格が高騰している。当分の間、この状況は続くと思込まれるが、製品価格への転嫁は容易ではないため、収益を圧迫される苦しい状況が続くと思う。
		製造業(窯業・土石製品)	9月は窯業・土石業界の繁忙期である。その分、中国メーカーのトラブルも増加するため、問題解決の仕事も増加することが見込まれる。
		製造業(一般機械器具)	受注はあるものの、先月以降、値下げを打診してくる企業が多くなった。値下げに応じなければ、何社かは取引を引き上げると思う。
		製造業(電気機械器具)	来客との雑談の中で、景気が上向きという話題がない。
		金融業	設備投資等に伴う資金需要の増加が見られない。景気はこの先も横這いと思われる。
		サービス業(コソカ外業)	市の公共事業発注に期待しているが、3ヶ月先では影響はまだ出ないと思う。
雇用	公共職業安定所	中小企業の求人増加により、景気は良くなりつつあるが、原油等の値上げにより相殺されるのではないかと。また、所得税の定率減税が廃止される影響も大きいと思う。	
	就職相談員	大きくは変わらないと思うが、夏季商戦による、製造業や小売販売業などの景気拡大を期待したい。	
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	少子高齢化、年金問題などにより、将来への不安が増し、消費は一層冷え込むと思われる。
		スーパー	定率減税の廃止と住民税の引き上げによる重税感が、消費動向に影響を及ぼすことを懸念している。特に中小企業では、賃金が増えない上での増税となり、家計の負担感は大きいと思われる。
		自動車販売店	自動車の取引自体が、ここ数年減少傾向にあるので、この先も楽観はできない。
		和食食堂	休暇中のレジャー出費を補うため、夏休み後には外食を控える人が増える。
	企業	製造業(食料品)	バイオエタノール開発の影響で、包装資材や畜産物飼料の価格が高騰している。このことが、商品価格に影響を与えるのは必至なため、先行きは不透明である。
		製造業(印刷・同関連業)	原材料の値上げが告知され、価格転嫁もできない現状を考えると、先行きには不安要因ばかりである。周辺の会社や商店街を見ても、明るいニュースが何もない。都市部の土地がバブル期並みに高騰している一方で、地方の土地は下げ止まりの気配もない。土地に限らず、各方面で格差が広がっている気がする。かつては、一生懸命努力すれば良い結果も出たが、今は努力しても報われないことが多いと感じている。
		製造業(印刷・同関連業)	印刷用紙の値上げが発表され、製品のコストアップが予想されるが、価格に転嫁させることはほぼ不可能なため、収益の悪化が懸念される。
建設業	原油価格の高騰に伴う建設材料の値上がりや、運送コストの上昇傾向は、この先も続くと思われ、収益の圧迫が懸念される。		
サービス業(広告業)	例年7～8月は、売上が落ち込む時期である。		
悪くなっている	家計	スーパー	周辺に競合店の出店が多数計画されているため、客足が遠のくことを心配している。
		専門スーパー	原材高に伴い、今後も様々な生活用品の値上がりが予想されるが、所得水準は上がる見込みがないので、益々買い渋りの傾向が強まるのではないかと。
		タクシー運転手	国政への不信感が拭えないので、先行きへの不安感は強く、このままでは景気も落ち込むのではないかと。
		パチンコ店	5号機(改正風管法の規則に則って開発された射幸性の少ない機械)の時代に入り、業界全体で売上げが減少している。資金の少ない会社や店舗においては、利益確保が難しくなると見込まれる。店が利益確保に走ると、負担が客にしわ寄せされ、結果的に集客数の低下を招くという悪循環に陥ってしまうことを懸念している。
	企業	製造業(窯業・土石製品)	現在のように受注が低迷している背景には、他業種からの参入者が増加したことに伴う、安売り競争の影響も少なくない。この状況が改善されない限り、窯業・土石業界の先行きは厳しい。
雇用	求人広告	取引先の小売店でも、工場でも、仕事がなく暇らしい。	

景気の判断理由

3 その他の意見

(1) 県北地域

分野	業種・職種	その他の意見
家 計 関 連	商店街代表者	中心商店街と、郊外にある大型店を巡回する「お買い物バス」が、今夏、実験的に実施される。これが成功し、継続され、街の活性化に寄与することを期待したい。
	スーパー	地球温暖化に関連する報道が増えるにつれ、CO2を排出するゴミに関する問い合わせが増加している。消費者の環境に対する意識が変わり始めているのかもしれない。
	スーパー	衣料品や外食関係の事業所は、客入りが厳しいようだ。市街地でも、空テナントが目につく。あまり景気の良い光景ではない。
	コンビニエンスストア	新商品の売上げは好調なことから、客はテレビCMなどの情報に敏感で、目新しいものについての購買意欲は落ちていないと思われる。また、金利の上昇観から、不動産の駆け込み購入が増えているようだ。
	衣料品販売店	土・日や祝日には、店舗周辺を人や車が全く通らなくなってしまった。
	家電販売店	薄型テレビを始め、デジタル家電が値下がりしている。
	農産物直売所	久慈川の鮎の解禁に伴い、週末には多くの太公望が見受けられる。
	ガソリンスタンド	周辺では、大手建設会社の倒産が相次いでいる。
	小売業（酒類）	インターネット販売では、高級ワインの売れ行きが順調である。
	小売業（水産物）	周囲の同業者からは、あまり景気の良い話は聞こえてこない。
	小売業（靴製品）	従来の黒・茶だけではなく、靴の色選びが多様化してきた。また、ブランド志向の強い客も増加している。一方で、低価格の品でいいという客層もあり、二極化が進んでいる。中高年の服装が、若者化していることも影響しているかもしれない。
	和食食堂	初めての試みで、日替わりセットを始めた。なかなか好評で、毎日のおかずを楽しみにして来店する客がいる。何もしなければ、何も変わらないので、来年以降も、新メニューのアイデアを考えながら、続けていきたいと思う。
	観光型ホテル	近辺の観光施設には、月曜日に休業・休館の所が多く、月曜日に観光できる施設を探している客をよく目にする。施設ごとに休館日をずらすなどの連携が必要ではないか。
	ゴルフ場	区画整理により新しい道路が整備され、その道路に沿って大型店舗が出店した。既存店舗には厳しい状況かもしれないが、人の流れが変わりつつある。人が動かなければ、景気も変わらない。これを契機に、景気が上昇することを期待したい。そして、生産と消費がスムーズに循環するよう、そのサイクルが歪みのない形になることを望みたい。
	ゲームセンター	県北地域の中でも、日立市は企業城下町的な風土があるため、地元企業の業績が上がることを期待している。
	レジャー施設	行楽地の家族連れを見ていると、コンビニで買った物を持ち込む人よりも、自宅で作った弁当を持参する人の方が多いように思う。
レジャー施設	条件の良い職場を求めて、正社員でも平気で退職してしまう。今後、人員を確保することが難しくなりそうだ。	
美容室	日立市内では、閉鎖店舗跡地のマンション建設や建設計画も多く、既に完売した物件もあるという。県北地域の景気が良くなっているという実感はないが、地域内でも格差が生じていることを改めて感じた。	
クリーニング店	ガソリンの値上げは、家計の消費意欲を削ぐ大きな原因になっていると思う。	
企 業 関 連	林業関係者	これから下刈の時期に入る。暑い中の作業のため、今年も労働力の確保が大変である。
	水産業関係者	県央や県南地域に比べ、県北地域は景気の高揚が感じられない。現在、北茨城市では、公共の宿「マウントあかね」での農業体験や今年5月1日にオープンした「漁業歴史資料館（よう・そるー）」などを通じて、町おこしを進めている。これらが契機となり、市内、ひいては県北地域の景気高揚に繋がることを期待している。
	製造業（食料品）	スーパーなどでは、大手メーカーの製品の値上がりが目につく。
	製造業（電気機械器具）	最近、日曜日の新聞に、企業からの求人広告が多数折り込まれているのを目にする。当社でも、派遣社員・正社員の求人を出しているが、適当な人材がいらないため、結局は新規雇用をしない状況が続いている。

(1) 県北地域

分野	業種・職種	その他の意見
企業 関連	製造業（電気機械器具）	新卒採用のため、県主催の合同セミナーに出席したところ、企業の出席数に比べ、学生数が少なかった。5月時点で就職戦線は終盤を迎えていたようである。売り手市場であることを痛感した。求人折込チラシも増加していると感じる。
	製造業（電気機械器具）	地元の運輸業者が破産し、業者が所有していた土地・建物が競売にかけられた。
	製造業（電気機械器具）	電力関係の仕事量が上向いてきた。
	建設業	地域も企業も、良い・悪いの区分がより鮮明になってきているように思う。
	情報通信業（情報サービス業）	地域格差、企業格差が大きくなってきたと感じる。
雇用	求人開拓員	製造業において、積極的に求人を増やしているが、団塊世代の退職に対する補充であり、景気との関連性は低いと思う。

(2) 県央地域

分野	業種・職種	その他の意見
家 計 関 連	商店街代表者	連休前に、ロックシティ水戸南ショッピングセンターがオープンした。ここ数年で、郊外にショッピングセンターが相次いで建設され、競争が激化しているため、既存の商店街は、取り残されたように衰退していつている。
	商店街代表者	旧ダイエー水戸店の跡地に、ショッピングセンターがオープンすれば、商店街への客足も伸びると思う。
	百貨店、総合スーパー	天候不順が続いているため、天候により売れ行きが左右され易い季節商品の売上げが伸び悩んでいる。
	スーパー	このまま原油の高騰が続けば、ガソリンだけでなく、石油関連製品の買い控えがあると思う。
	スーパー	団塊世代の退職者が急増していることに伴い、商品動向にも変化が生じている。健康を切り口にした商品は、動きが活発である。
	家電販売店	地域格差、教育格差、雇用格差など、様々な局面での格差がそのまま景気動向に繋がっている気がする。格差問題を是正しない限り、本格的な景気回復にはならないと思う。
	農産物直売所	最近、支払い時に客が1万円札を使用する場面が減ってきている。両替用に用意している千円札が減らず、貯まる日が多い。
	専門スーパー	材料価格の高騰により、商品の値上げが相次いでいる。
	専門スーパー	以前からも傾向としてあったが、最近特に、一般家電製品や工事事業者が使用する電動工具などについて、修理の依頼が増加しているように思う。
	割烹料理店	食については情報も多く、特にテレビのグルメ番組等の影響により、高級食を望む傾向も伺える。
	都市型ホテル	ガソリンを始め、食料品や生活用品の値上がりが続いている。これによって流通が弱まり、景気が悪化することを懸念している。
	旅行代理店	団塊世代の旅行需要の拡大に期待しているが、目立った伸びは見られない。
	タクシー運転手	年金、介護、住民税の負担増、どれをとっても、将来に不安を感じている人が多いようだ。
	タクシー運転手	規制緩和政策については、タクシー業界を含め、プラス面よりマイナス面の方が大きいように感じる。現場の状況に照らし、見直しを行うべきではないか。また、交通規制の強化により、企業や地域主催イベントのやり方や回数が消極的になっているように思う。現在、様々な面でコンパクト・縮小化の傾向にあるが、特に公共団体には、経費節減だけではなく、経済効果の大きい、有効的な金の使い方を考えてほしい。
	ドライブイン	最近、食材や包装材の原料価格の値上げが相次いでいる。一方、小売段階での値上げはなかなか出来ないため、収益が圧迫され厳しい状況である。
	ドライブイン	借樂團を訪れる客数は年々減少している。周辺の道路状況の変化や自然環境にも大きく左右され、営業状況も厳しくなっている。
	観光名所	毎年5月は、学校利用の多い時期ではあるが、今年は例年より利用者数が若干増加した。昨年7月に、隣接する公園に、子供向け遊具が設置されたことが要因と思われる。
	ゴルフ場	少子高齢化の影響か、ゴルフ人口そのものが減少している。また、プレー料金の低価格化志向が顕著になってきた。
	パチンコ店	パチンコ店への来店動機として、ギャンブル性が低く遊べることを重視した客層が増加しているように感じる。遊技台も、ギャンブル性の低い機械が以前よりも多く開発されてきている。
ゲームセンター	無駄な支出は抑えつつも、自分のライフスタイルに合ったものには、惜しまず出費する人が増えたように思う。緩やかではあるが、景気は上向いているのではないかと。	
レジャー施設	お土産の購入に伸びはないが、飲食の利用は若干伸びている。飲料の持ち込み減少が1つの要因と考えられる。持ち運びが面倒であり、また従来の「観光地価格」も減ってきて、街中のコンビニと価格が変わらないことが消費者に浸透してきたのではないかと。	
理容店	今春、町内で店仕舞いした店舗が3件あった。現在、閉店の話が進んでいる所もある。当分の間、個人事業者には苦しい状態が続きそうだ。	
建築設計事務所	設計事務所の中でも、構造設計を主に営業している事務所では、1年位前から、受注が引きも切らないとのこと。公共施設はもちろん、民間施設でも、耐震補強関連の構造計算や設計の注文が多いらしい。社会問題になった耐震偽装や、最近各地で大きめの地震が頻発していること等が不安材料となっているようだ。	

(2) 県央地域

分野	業種・職種	その他の意見
企業 関 連	製造業(食料品)	100円ショップの品数が減少したように思う。また、食料品スーパーが、安売型に転換して今のところ成功しているようだ。
	製造業(金属製品)	今までは、スーパー等の商業施設の工事が多かったが、最近では、製造業の設備投資絡みの工事(工場増設等)が増加している。業績の良い会社は、ここきて積極的に設備投資をしているようだ。企業の勝ち組・負け組の区分がより明確になってきたと感じる。
	製造業(精密機械器具)	国内産業の設備投資の動きが活発化しているようだが、自社製品では、小型・中型の研究・開発用よりも、品質管理・環境対策製品など、大型高額製品の引合いと受注が増加している。
	建設業	定率減税の廃止や住民税の引き上げ等により、手取り額が減少しているため、財布のヒモが益々固くなったように感じる。
	運輸業(道路貨物運送業)	田舎暮らしの記事や番組を良く目にする。有機や減農薬など、環境に配慮した生活に関心を持つ人が増えているということだろう。
	情報通信業(情報サービス業)	中央と地方の景況感格差は更に拡大し、多くの企業が、目線を首都圏に合わせる傾向は更に強まっている。また、地場産業の弱体化と空洞化が一層進み、各市町村の商店街の衰退ぶりを見るにつけ、小売業を始めとした地域経済は、外様企業に握られつつあると感じる。これを止むを得ないと思っでは、現状を打破できない。何らかのコンフル剤が欲しいところである。
	サービス業(コンサル外業)	水戸市の不動産市場においても、建設ラッシュはほぼ収束に向かっている。
雇用 関 連	人材派遣業	若年層の人手不足感は、やはり顕著である。これに伴い、人材派遣業への求人が増加しているが、常用雇用や企業の直接採用の勢いも強い。
	公共職業安定所	平成19年3月卒の高校生の就職内定率は99.7%で、昨年より0.4ポイント増加、求人倍率は1.5倍(昨年は1.33倍)であった。就職者数も前年比で2.3ポイント増加している。これは、景気回復や団塊世代の大量退職を見越し、技術のノウハウを伝承するために、若者を早急に育成したいという企業が採用を増やしたこと、そして高校生の就職が多い製造業で採用を増やしたことが、主な要因と考えられる。
	学校就業関係者	企業の採用予定人数が軒並み増加していることから、上辺では、景気が極めて好調のような印象を受けるが、他方、独立法人化された国立大学も含めて、公務員関係は予算・給与とも削減され、好景気は一体どこの話か、という感じがする。ただ、社会保険庁の杜撰な仕事ぶりを目の当たりにすると、公務員の待遇改善など、なかなか国民の理解は得られそうもない。

(3) 鹿行地域

分野	業種・職種	その他の意見
家 計 関 連	商店街代表者	先進国の食糧自給率は100%以上だが、日本は40%台に止まっている。減反一辺倒ではない、有効な農業政策が必要だと思う。また、バブル崩壊後の立ち直りも遅々として進まない地方においては、商業や消費の分野でも政策の転換が必要だと感じる。税は源(みなもと)に在るもの、皆が利益を得てこそ、豊かな社会を実現できるはずである。
	商店街代表者	新たなコンビニが出店する一方で、空き店舗が目につく商店街の光景を見ていると、地域差では片付けられない社会的、構造的な問題があると感じる。
	商店街代表者	地域的に集客力があるのか、コンビニや大型チェーン店の出店が相次いでいる。
	コンビニエンスストア	最近の消費者の動向として特徴的なのは、買い上げ点数が少ないことである。今後もこの傾向は続くものと考えられる。
	自動車販売店	少子高齢化がこのまま進行すれば、流通が停滞し、消費も鈍化するのではないか。
	小売業(菓子販売店)	都会と地方の格差は今後も広がっていくと思う。
	小売業(金物店)	金属類や紙の価格が上がっている。
	衣料品販売店	「ボーナスが良かったらコレを買う」という声を聞くようになった。以前は、ボーナス時期でも聞かなかった言葉なので、給与面の待遇が改善されつつあるのかなと感じた。
	スナック	店主同士で話をすることが度々あるが、「もう続けるのは無理かもしれない。借金さえ無ければ、すぐにも閉店したい。」という声がしばしば聞かれる。以前はプライドがあり、人前でこんなことを言う人はいなかったのに、最近はどこへ行っても嘆きの言葉が聞こえてくる。
	洋食食堂	食事の際、酒を飲む客が激減した。逆に、酒を飲まない運転手を確保してから来店するグループや家族連れが増加している。
	割烹料理店	ファミリーレストランが増加している。しかも、週末には、どこも満席の賑わいである。
	日本料理店	隣町に、1皿100円の回転寿司店があるのだが、週末には行列ができる程賑わっている。先月、その近くに新しい回転寿司店がオープンしたが、そこも週末には行列ができていた。依然として、安価な店のニーズは高いようだ。
	タクシー運転手	一部の商業施設では、高額商品が売れるようになったとされているが、乗客の様子からは特に変化は見られない。
	タクシー運転手	最近、神栖市内で、アパートや飲食店の新築が目につくので、建設業界ではやや景気が良くなっているのかもしれない。
	ドライブイン	メロンなど旬の生鮮品は、安定した売れ行きを保っている。
	観光名所	潮来市周辺においては、特に目立った様子は見られず、景気に楽観はできない。地方では上向いているとはまだ感じられない。
	ゴルフ場	景気の良い地域や業種が、はっきりしてきたように感じる。
	パチンコ店	土日の客数が減少している。
	理容店	原油の高騰が、今後どのように生活に影響してくるのか心配である。
	クリーニング店	大手ハウスメーカーの現場は忙しいが、個人の大工は厳しいようだ。また、飲食店では、飲酒運転の取り締まりや罰則の強化により、来客数が減少しているようだ。
室内装飾業	中高年女性の旅行意欲が非常に活気づいているように感じる。	
企業 関 連	製造業(食料品)	依然として、地域間の格差を感じる。
	製造業(食料品)	鹿行地域は、企業の進出に関しては、県内の他の地域よりも盛んだと思う。しかし、飲食店などはチェーン店が多く、一極集中の傾向が見られ、旧来の商店街は崩壊寸前である。
	製造業(飼料)	穀物原料の長期的値上げにより、食品・飼料メーカーは長期的に苦しい状況が続くと思われる。

(3) 鹿行地域

分野	業種・職種	その他の意見
企 業 関 連	製造業（化学工業）	採用活動が難しくなっている。特に、技術系の人材不足が懸念される。
	製造業（鉄鋼業）	ガソリンスタンドの改装や、飲食店の新規出店などが目に付く。
	運輸業（道路貨物運送業）	環境対策を進めてきた企業と、そうでない企業との間に少しずつ差が出てきているようだ。やがては、受注量や顧客信用にも影響してくるのではないかと。これからの企業では、環境対策も重要な設備投資として認識しなければならないのかもしれない。
	運輸業（道路貨物運送業）	軽油の値上がりや今後の取扱運搬量が不透明であることは、経営への影響が大きいと思う。
	金融業	金融業や、全国チェーンの小売業の新規出店が増加しているように思う。
	保険業	鹿行地方に営業所を持つ県内建設業者が倒産したことにより、あちこちで「万円もらえない」といった債権者の声が聞かれる。
	不動産業	物流関係の大型トラックが頻繁に走行している。
	サービス業	産業機械・建設機械メーカーのひたちなか市への進出に伴う特需を期待している。
雇 用 関 連	民間職業紹介業	求職者の傾向としては、やはり正社員希望が多く、条件的にも求めるレベルが高い。なかなか求人側とのマッチングを図るのが難しい状況である。
	公共職業安定所	これまで、地元の中小事業主からは、景気回復の実感が感じられないという声が多かったが、最近その中にも、明るさを感じられるようになった。求人数も増加傾向で、新規学卒の求人受理説明会への参加事業所も、前年に比べ40%増加している。
	求人開拓員	企業としては、業務拡大が可能な状況だが、そのための適当な人材が確保できないという話を聞く。

(4) 県南地域

分野	業種・職種	その他の意見
家 計 関 連	スーパー	夜間22:00～24:00の求人募集をかけると、多くの問合せが来る。「生活費の足しにしたい」という募集動機が多いことから、依然として景気は回復していないのだと感じる。
	スーパー	競合他社の折込チラシで、号外的なものが増加しているように思う。定期的に入るチラシの他に、週末や月末などに多く見受けられる。
	スーパー	価格を重視し、安価な商品の購買を目的とした客と、高額でも品質の良い商品を希望する客と、客層の2極化が一層進んできている。
	衣料品販売店	年配者は高額商品を購入しているものの、40歳以下の年代では未だに客単価が上がらない。
	農産物直売所	会計時に、千円札や500円玉を出す客が多くなったように思う。これに伴い、客単価も減少している。
	専門スーパー	つくばエクスプレス沿線の住宅やマンションの分譲が好調なようである。消費を景気のパロメーターと考えれば、色々な面で、県南地区、特につくばエクスプレス沿線地域の景気は向上していくと思う。
	ガソリンスタンド	つくばエクスプレスが開業したことにより、駅周辺の地価が上昇しているが、移動時間が短縮されたことで、人が東京へ流れ、つくば市が空洞化することを危惧する声も聞かれる。
	洋食食堂	また1件、近くのレストランが閉店した。駅から5～6分の、人通りの多い場所だったので残念である。
	洋食食堂	公務員の若者、印刷会社を経営する男性、パートの女性など、周囲の人達に景気について聞いてみたが、揃って悪いと回答した。パートの女性は「最近、色々な物が値上がりしている。生活が楽にならない。なぜかなあ。」と言っていた。
	寿司店	6月は総会など集まりが多い時期だが、主催者や来賓の挨拶では、決まり文句のように「景気が低迷している」、「景気が良いのはごく一部」と言っている。また、来店客との会話では、税金や年金の話題を耳にする機会が多い。
	都市型ホテル	営業で外回りをしていると、国産高級車や外車が多く目に付く。また、結婚式の費用も、招待人数こそ減少しているが、1名あたりの単価は上昇している。
	都市型ホテル	最近のパーティーや宴会では、ホテルの1次会で解散しそのまま帰宅する人が多く、2次会へ行く人が減少している。
	旅行代理店	規制緩和と政策により、同業者が増加、価格競争が激化し、企業経営を悪化させている。
	タクシー運転手	タクシーの利用範囲が近くなっている気がする。
	タクシー運転手	客足が、別の交通機関へ移っているような気がする。
	タクシー運転手	つくば市の学園都市地区では、客の動きが活発になっている気がする。
	ゴルフ場	予約の出足が早くなっている。以前のように、いつでも予約が取れる状況ではなくなっている。
	美容室	土浦市の活性化について、周辺住民の方々との茶話会形式で、知恵を出し合っている。「土浦愛」を意識しつつ、住民1人1人が出来る事から実行していこうと努力中である。また、昨年11月1日に土浦商工会議所から発売されたツェッペリンカレーのレトルトバージョンは、好評につき、北関東グルメ企画としてコンビニでも販売されることになった。今後の展開を期待したい。
	住宅販売会社	個人事業主の動きが良くなってきた。
	企 業 関 連	農業関係者
製造業(食料品)		つくば市内は、宅地開発が進み、マンションの建設も目立ち、景気が良い感じがするが、住民にその実感はない。好景気を実感しているのは、地主くらいではないか。
製造業(窯業・土石製品)		年金問題が報道され、将来への不安感から、消費が抑制されるのではないかと。
建設業	精力的に1日営業回りをしても、3～4ヶ月前の半分の情報も得られない。特に5月以降、物件情報数が極端に不足しており、この先非常に心配である。友人は、息子には仕事を継がせたくないと言っている。情熱を持っていないければ、とてもやっていけない仕事であり、土浦近辺でも、2代目に替わってから建設業を廃業した事業所がある。	

(4) 県南地域

分野	業種・職種	その他の意見
企業 関 連	建設業	近所に、業績好調な建設機械関係の会社があり、その関連工場は景気が良さそうである。
	建設業（設備工事業）	同業者同士の価格競争により、利益があまり出ない。
	金融業	所得格差を感じる。安価な商品ばかりが売れる訳ではなく、高所得者層には、付加価値により価格の高い商品でも売れている。
	不動産業	土浦市の旧市街地については、取引環境が厳しく、今後益々空洞化することが懸念される。また、最近では、土地・建物の購買パターンが、既製品購入化してきており、マンション分譲や戸建分譲の供給が多くなっている。
雇 用 関 連	求人広告	今はサービスの飽和状態であり、働くことよりも利用することに集中している人が多い気がする。しかも、金銭の支出を伴わず、如何に楽しい事ができるかを希求する考え方が浸透しているように思う。
	公共職業安定所	派遣や請負から、直接採用へ切り替える傾向が見られる。
	学校就業関係者	社会人向けのパソコン講座等を実施しているが、昨年よりも受講希望者が少ない。仕事が忙しいため、講座に参加する時間が取れないことが一因と推測される。
	雇用相談員	団塊世代の大量退職が始まる年ということもあり、定年退職者の求職者が増加すると予測していたが、定年延長や再雇用などの企業対応によるものが、存外に少ない。一方、こうした年代を対象とした求人が、特にサービス業を中心に目立ってきている。

(5) 県西地域

分野	業種・職種	その他の意見
家 計 関 連	商店街代表者	市街地にあったショッピングセンターが経営破綻し、不動産会社の所有になった。
	商店街代表者	客層に高齢者が多いので、年金や介護保険の話をよく耳にする。昨年4月の介護保険制度改正に伴い、介護保険料が上がったため、あまり出費ができないという声を複数の人から聞いた。
	スーパー	周囲では、大手企業の景気は良いが、中小企業は依然として厳しいという声が多い。
	衣料品販売店	母の日などのギフト単価が、昨年と比較して2割程度低下している。
	自動車販売店	自動車の代替サイクルが延びてきている。
	専門スーパー	原油に限らず、食料品や産業資材においても原材料が高騰しており、今後物価の上昇は避けられないだろう。また、中国産などの海外生産品に対する不信感が高まり、客の購買態度が慎重になったように思う。
	ガソリンスタンド	原油高騰に伴い、燃料価格が上昇している。
	和食食堂	大型店の出店が相次ぎ、個人商店はかなり厳しい状況である。
	和食レストラン、割烹	個人の価値観が多様化していると感じる。借金しても外車に乗る人や、ファーストフードで食費を切り詰めてブランドバックを買う人、身なりには無頓着だが外食にはお金をかける人など、自分の好きなもの・こだわりには妥協しない人が多いようだ。
	都市型ホテル	企業合併が増加したことにより、早期退職者が増加したように思う。
	タクシー運転手	曜日によって、利用者数にはバラツキがある。
	タクシー運転手	乗客との会話で、次のような声を良く聞く。「生活に余裕がある訳ではないが、苦しくてどうしようもないという程でもない。ただ、最近の報道を見ていると不安になる。税金のこと、年金のこと、参議院選挙の結果など、とにかく不安になる話が多く、家計を控えておかないと、どうなるか怖い。」
	ゴルフ場	国内男子プロゴルフツアーの最年少優勝記録が塗り替えられたことにより、男子ゴルフ界にもスターが登場した。女子ゴルフの人気も継続しており、ゴルフ業界にもフォローの風が吹き始めたようだ。
レジャー施設	相変わらず、客単価が上がらない。	
クリーニング店	商店会などでイベントを開催しても、人が集まるのは開催時だけで、終了と同時に人がいなくなってしまう。	
企 業 関 連	製造業（食料品）	期限切れ原料の使用問題で、営業を休止していた近所の洋菓子店が、営業を再開した。客入りも良く、繁盛しているようだ。地域でも美味しいと評判の店だったので、再開を喜んでいる。
	製造業（印刷・同関連業）	40年来お世話になったプラスチック関係の得意先が、先月倒産した。市内の工業団地が造成された当初から進出し、一流化粧品メーカーとも取引があった、かつての優良企業も時代の変化に対応できなかったのかと残念でならない。企業は生き物というが、永久的に企業を継続させることは本当に難しい。かつてのピラミッド型の経営構造を必ずしも良しとする訳ではないが、大企業がコストダウンを追求するばかりでなく、関連の中小下請企業の面倒をある程度みなければ、日本の中小零細企業は壊滅してしまうのではないかと危惧している。
	製造業（窯業・土石製品）	関東地区だけでなく、東北や北陸地区でも、窯業・土石業界の先行きは厳しいようだ。
	製造業（窯業・土石製品）	先日、笠間稲荷神社の周辺を散策したのだが、昔日の賑わいがなく、ひっそりとしていて驚いた。保守的な安定志向だけでは、時代の変化に飲み込まれてしまうのかもしれない。変革・チャレンジ精神を大切にしつつ、常に変化に挑戦していきたいと思う。
	建設業	小売業では、大型店舗の進出により、個人商店のほとんどは壊滅状態、建設業でも、自営の大工にはほとんど仕事がない状態であり、一般企業でも、残業する程仕事を抱えているのは1部の会社だけというように、勝ち組・負け組の差が鮮明になってきた感がある。ガソリン価格の値上げに伴い、消費税負担も比例して増加しているが、政府は景気浮揚策として、高率なガソリンに係る税（ガソリン税＋石油石炭税＋消費税）を政策的に減らすことを検討してみてもはどうだろうか。
	金融業	下妻市開発公社が新たに造成する工業団地に、上場企業の工場誘致が決定した。地元では、従業員雇用に伴う波及効果に大きな期待を持っている。
	不動産業	客数に比べて、売物件が足りない。

(5) 県西地域

分野	業種・職種	その他の意見
企業関係	サービス業（広告業）	地域と都市部，中小企業と大企業では，景況感が違う。格差の広がりを感じる。しかし，消費者の動向については，必要なものは買うという購買意欲が高まっているように思う。
	サービス業（コンサルト業）	合併後，初めての市議会議員選挙も終わり，政治的には安定してきたと思う。これから，市発注の公共事業が地元企業にどのような好影響を与えてくれるか静観したい。経済波及の裾野が広い建設関係が元気にならないと，景気の回復も難しいのではないか。
雇用関連	人材派遣業	受注の増減が大きくなっている。
	求人広告	設備投資の関係は忙しいようだが，全体的に1月中旬以降は，業務に余裕のある企業が多いと思う。
	学校就業関係者	鉄鋼，アルミニウム，銅合金などの金属材料価格が上がり，就業訓練のための教材費に響いている。
	就職相談員	本当に忙しい時だけ，求人を出したいという事業所の声がある。しかし，ピークを過ぎた後のことを考えると，現状人員で我慢してしまうようだ。